

4. 調査結果の地区別 概要・分析

4 地区別の調査結果

(1) 地区別集計の概要

[回答者の居住町丁別人数及び割合]

- 連合自治会町内会エリアを「地区」として、地区別に集計結果をまとめました。回答人数が少なく、厳密なデータではないため、おおよその傾向としてご参照ください。
- アンケートで確認できる回答者の居住町丁域を単位に、連合自治会町内会エリアに割振りしています。そのため、実際の連合自治会町内会エリアと異なる地域があります。
- 町丁別に回答者数にバラつきがあるのは、調査対象者を住民基本台帳等を基に無作為抽出した結果です。

地区名（連合自治会町内会エリア）とお住まいの地域

地域名	回答者数	割合 (%)	町丁名
大倉山地区	183	8.2	大倉山
大曽根地区	65	2.9	大曽根・大曽根台
篠原地区	258	11.6	菊名1丁目～3丁目・篠原町・篠原台町・篠原東・篠原西町・仲手原・富士塚
菊名地区	268	12.0	菊名4丁目～7丁目・篠原北・新横浜・錦が丘・大豆戸町
城郷地区	161	7.2	岸根町・小机町・鳥山町
日吉地区	449	20.1	下田町・日吉・日吉本町・箕輪町
新吉田・新吉田あすなろ地区	181	8.1	新吉田町・新吉田東
高田地区	111	5.0	高田町・高田東・高田西
樽町地区	122	5.5	樽町
綱島地区	265	11.9	綱島上町・綱島台・綱島東・綱島西
新羽地区	88	3.9	新羽町・北新横浜
師岡地区	69	3.1	師岡町
港北区外に転出	4	0.2	
無回答	7	0.3	無回答
合計	2231	100	

※地区別のグラフは一部を抜粋しています。すべての項目について確認したい場合は、港北区ホームページに公表している元データを参照してください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kohoku/kusei/tokei/ishiki/r02.html>

(2) 地区別集計

大倉山地区

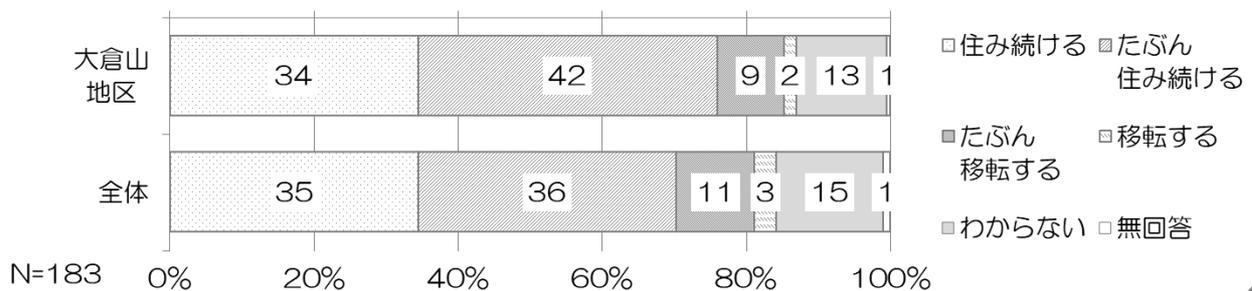
1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割を超える

Q：あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っ
ていますか。(○は1つだけ)

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割を超え、
継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計(71%)と比較しても、
割合は多くなっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」(73%)、
「住んでいる場所に愛着を感じているから」(63%)が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

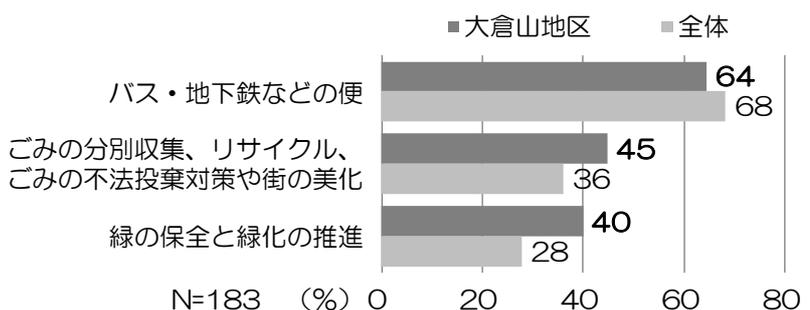
Q：あなたが、満足している公共サービスは何ですか。
また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。
(全31項目から選択。○はいくつでも)

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が64%で最も多くなっています。また、「緑の保全と緑化の推進」(40%)や「商店街の振興」(28%)が全体集計と比較すると割合が多いです。

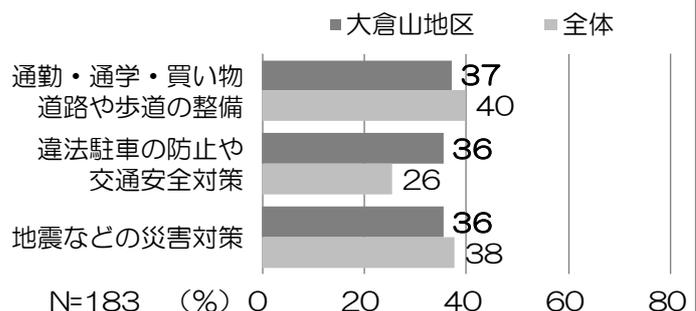
【充実すべきと思う公共サービス】では、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」、「違法駐車
の防止や交通安全対策」、「地震などの災害対策」と安心・安全に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「違法駐車
の防止や交通安全対策」(36%)は、全体集計と比較すると10ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】 <上位3項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位3項目>



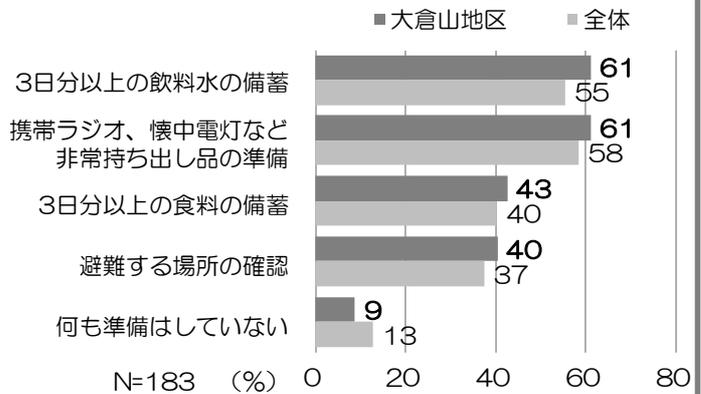
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q：あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。（〇はいくつでも）

地震があった場合の備えとしては、「3日分以上の飲料水の備蓄」、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」が6割、「3日分以上の食料の備蓄」、「避難する場所の確認」が4割程度となり、全体集計と比べ多いですが、在宅避難に必要な飲料水や食料について、約4割の方の備蓄が完全でないと言えます。

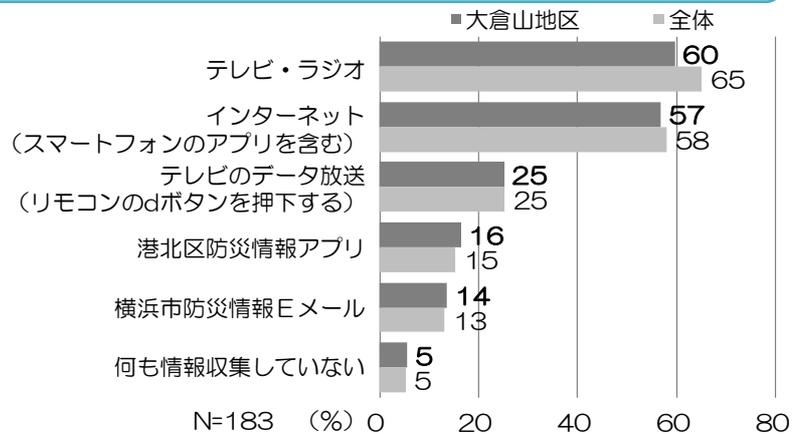


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q：あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。（〇はいくつでも）

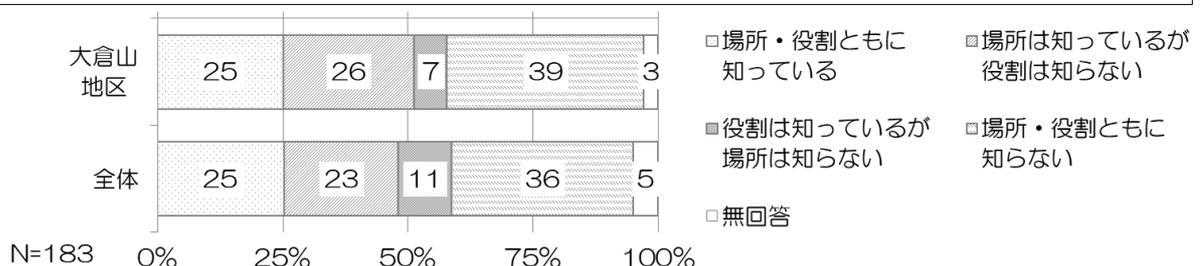
気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。



◆避難場所や避難所の役割について（地域防災拠点）

Q：あなたは、地域防災拠点（指定避難所）の場所や役割を知っていますか。（〇は1つだけ）
※地域防災拠点（指定避難所）：一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数程度、「役割」まで知っている方は、2割半ばという結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は約4割でした。



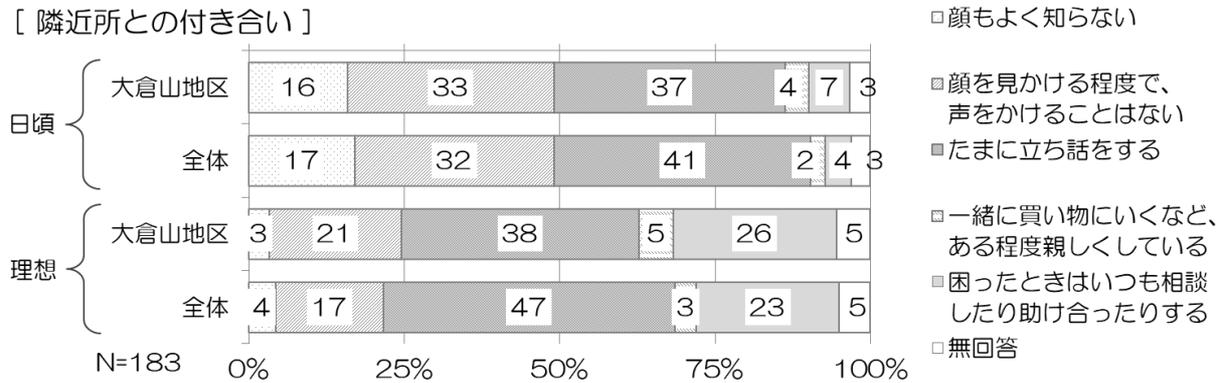
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q：あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。（○は1つだけ）

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が半数程度（49%）と、全体集計（49%）と同率となっており、区全体の結果と同様、近隣との関係は薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割半ば、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割半ばなど、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

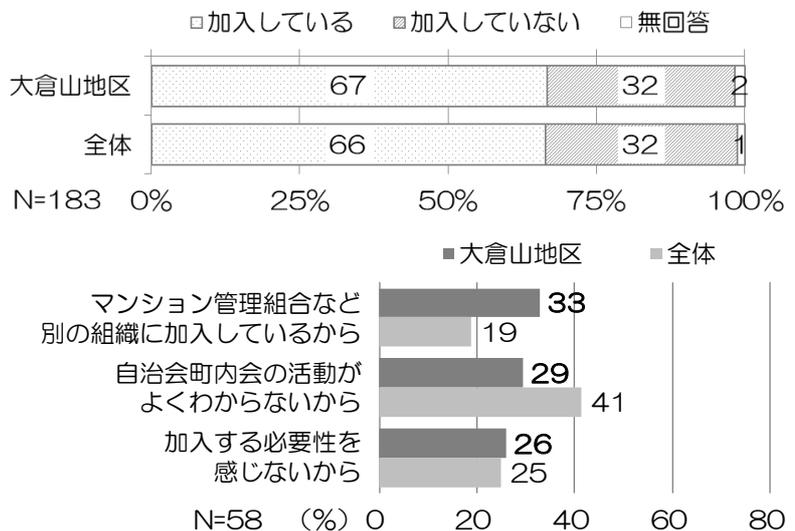
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由 <上位3項目>

自治会町内会への加入は6割半ばを超える

Q：あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。（○は1つだけ）また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。 <自治会町内会に「2.加入していない」と回答した方（○は3つまで） >

自治会町内会へ加入しているのは67%で、全体集計（66%）と比較すると、ほぼ同率となっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「マンション管理組合など別の組織に加入しているから」が最も多く、「自治会町内会の活動がよくわからないから」、「加入する必要性を感じないから」が上位となっています。



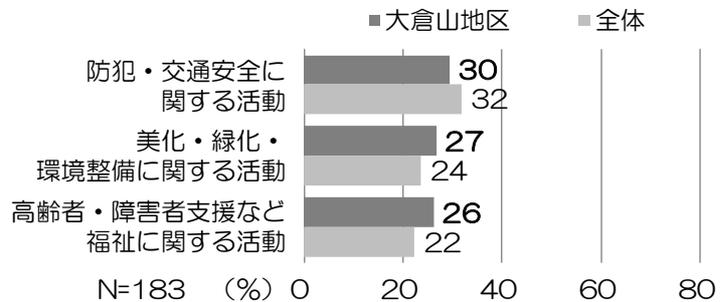
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「高齢者・障害者支援など福祉」が上位3項目

Q：今後、あなたが、お住まいの地域（自治会町内会等）で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。（〇はいくつでも）

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」、「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が2割以上で上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

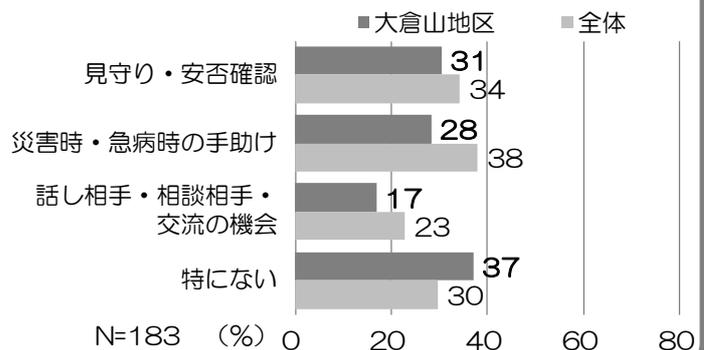
※「特にない」の回答は除く

回答者の6割半ばの人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「見守り・安否確認」、「災害時・急病時の手助け」が約3割、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。「災害時・急病時の手助け」(28%)は、全体集計と比べて少ない傾向ではありますが、上位です。

Q：日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。（〇はいくつでも）

なお、「特にない」と回答したのは約3割半ばで、6割半ばの方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。



5. 通勤・通学場所

Q：あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。（〇は1つだけ）〈ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方〉

主な通勤・通学場所は、横浜市内が5割強で、港北区内はそのうち半数程度の割合となっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学がやや多くなっています。



大曽根地区

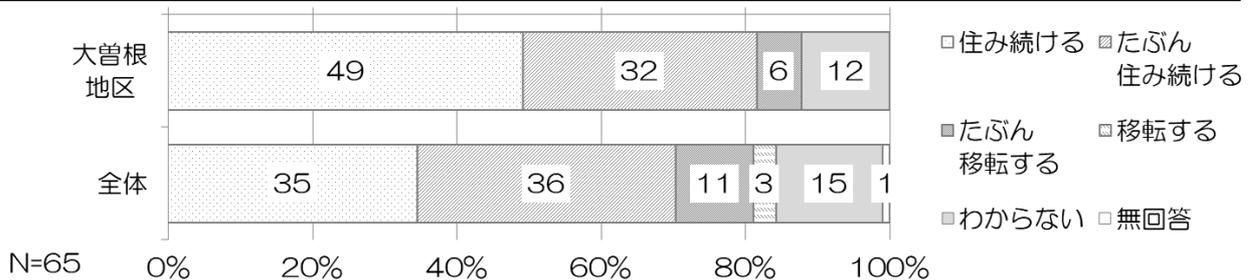
1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が8割を超える

Q：あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っ
ていますか。（○は1つだけ）

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が8割を超え、
継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計（71%）と
比較しても、割合は多くなっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「住んでいる場所に愛着を感じているから」（68%）、
「交通が便利だから」（66%）が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

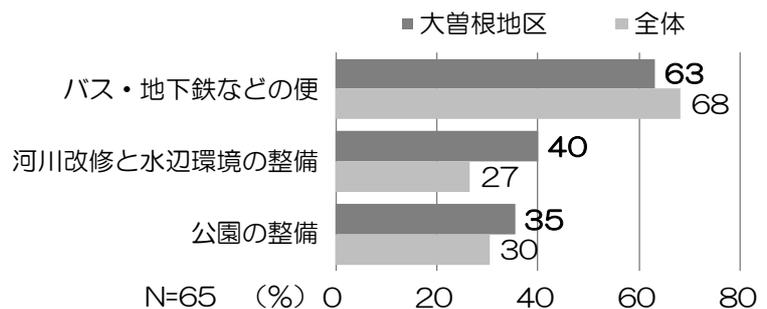
Q：あなたが、満足している公共サービスは何ですか。
また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何
ですか。（全31項目から選択。○はいくつでも）

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が63%で最も多くなっています。また、「河川改修と水辺環境の整備」（40%）が全体集計と比較すると割合が多いです。

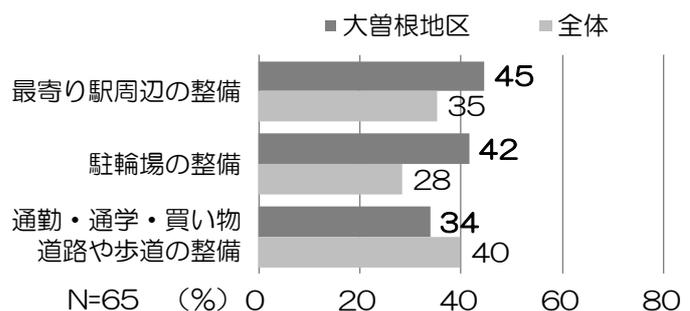
【充実すべきと思う公共サービス】では、「最寄り駅周辺の整備」、「駐輪場の整備」、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」と駅周辺の環境に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「駐輪場の整備」（42%）は、全体集計と比較すると14ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】＜上位3項目＞



【充実すべきと思う公共サービス】＜上位3項目＞



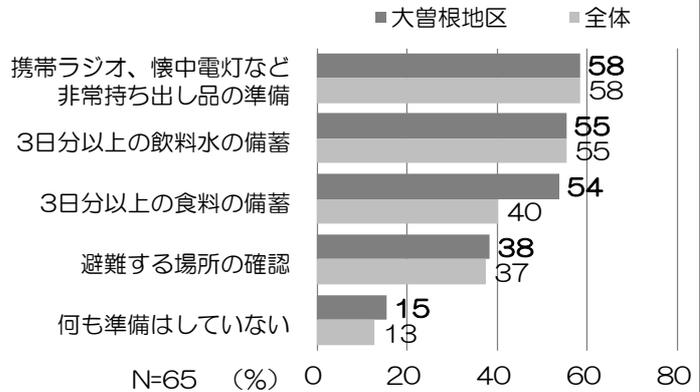
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q：あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。（〇はいくつでも）

地震があった場合の備えとしては、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」、「3日分以上の飲料水の備蓄」、「3日分以上の食料の備蓄」などが5割半ば程度で、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数程度の方の備蓄が完全でないと言えます。

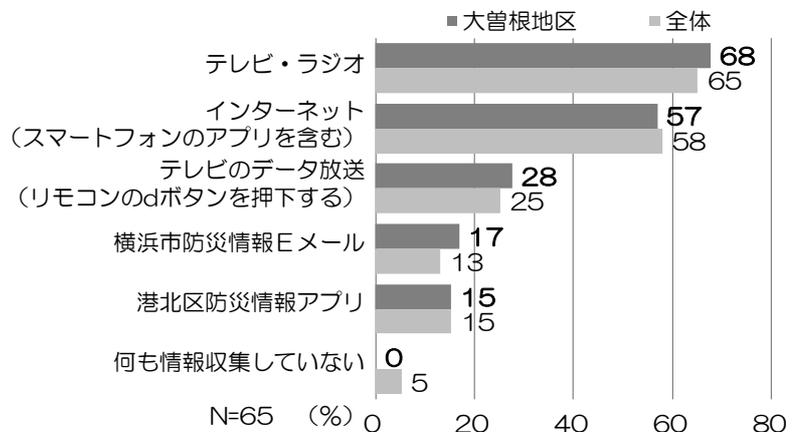


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q：あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。（〇はいくつでも）

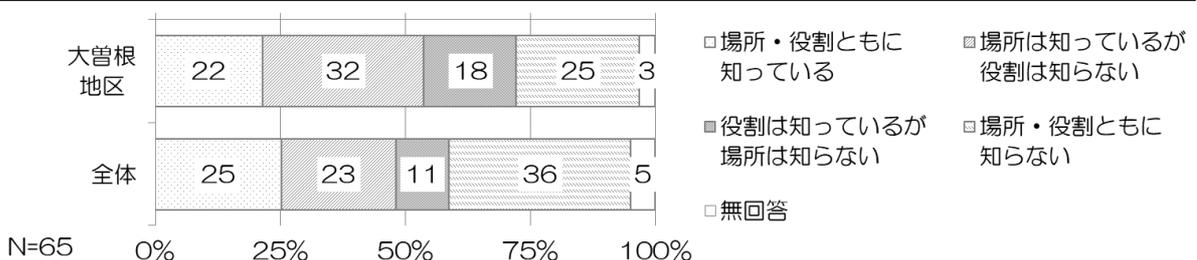
気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。



◆避難場所や避難所の役割について（地域防災拠点）

Q：あなたは、地域防災拠点（指定避難所）の場所や役割を知っていますか。（〇は1つだけ）
※地域防災拠点（指定避難所）：一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数程度、「役割」まで知っている方は、2割程度という結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は2割半ばでした。



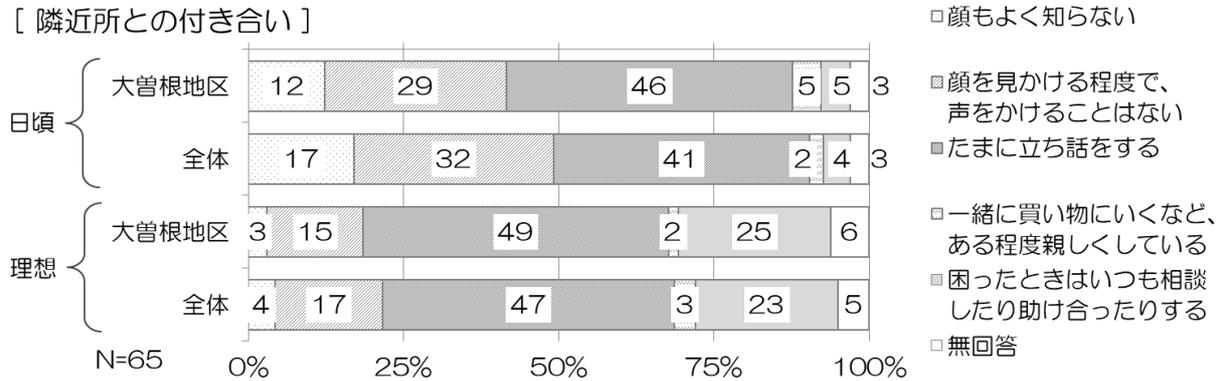
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q：あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いますか。（○は1つだけ）

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が4割程度（41%）と、全体集計（49%）よりも少なくなっていますが、区全体の結果と同様、近隣との関係は薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割程度、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割半ばなど、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

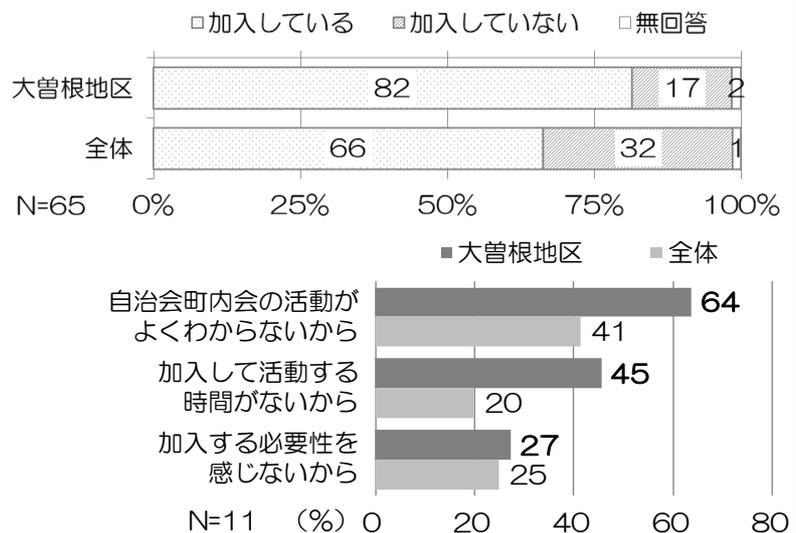
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由 <上位3項目>

自治会町内会への加入は8割を超える

Q：あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。（○は1つだけ）また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。 <自治会町内会に「2.加入していない」と回答した方（○は3つまで）>

自治会町内会へ加入しているのは82%で、全体集計（66%）と比較すると、割合が多くなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入して活動する時間がないから」、「加入する必要性を感じないから」が上位となっています。



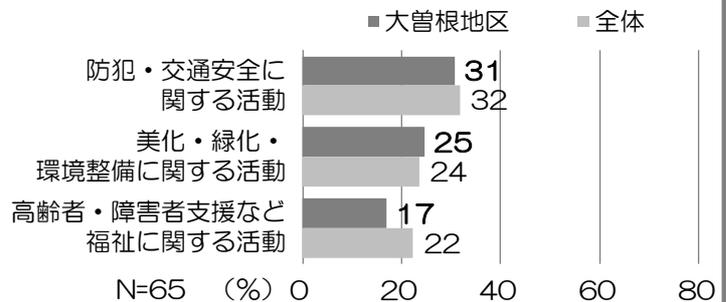
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「高齢者・障害者支援など福祉」が上位3項目

Q：今後、あなたが、お住まいの地域（自治会町内会等）で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。（〇はいくつでも）

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が約3割、次いで「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

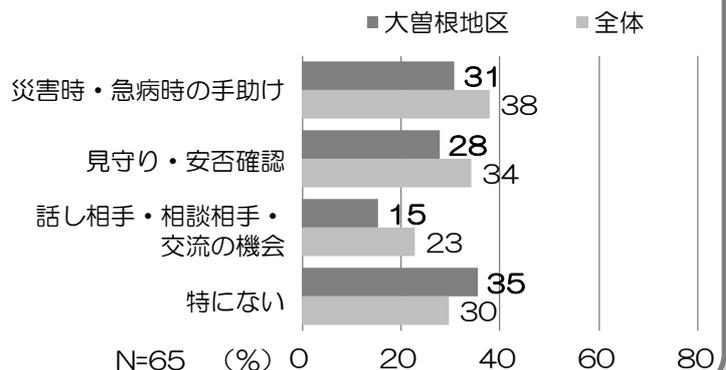
※「特にない」の回答は除く

回答者の6割半ばの人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」、「見守り・安否確認」が約3割、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。

Q：日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。（〇はいくつでも）

なお、「特にない」と回答したのは3割半ばで、6割半ばの方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

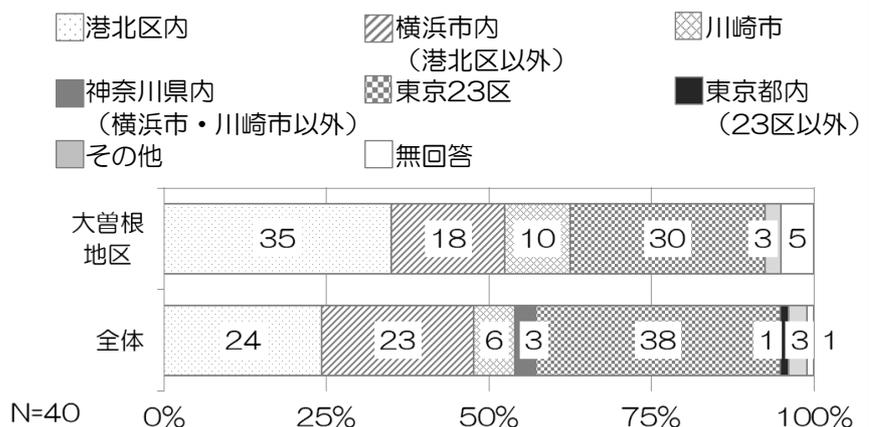


5. 通勤・通学場所

Q：あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。（〇は1つだけ）〈ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方〉

主な通勤・通学場所は、横浜市内が5割強で、港北区内はそのうち6割半ばとなっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学がやや多くなっています。



篠原地区

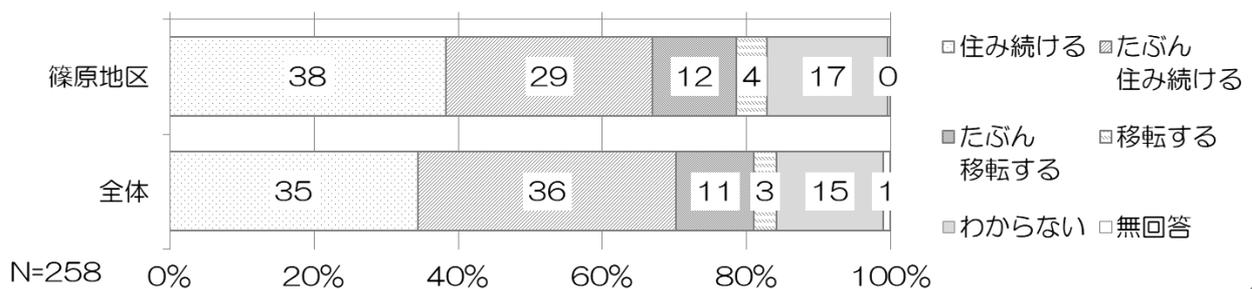
1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割弱

Q：あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っっていますか。（○は1つだけ）

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割弱で、継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計（71%）と比較すると、割合はやや少なくなっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」（79%）、
「住んでいる場所に愛着を感じているから」（61%）が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

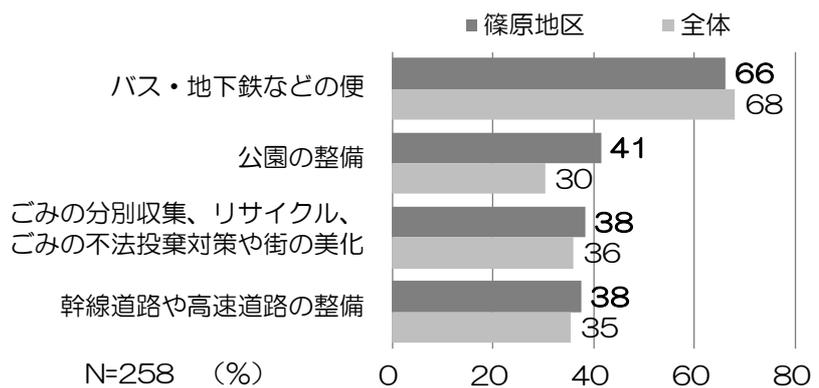
Q：あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。（全31項目から選択。○はいくつでも）

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が66%で最も多くなっています。また、「公園の整備」（41%）が全体集計と比較すると割合が多いです。

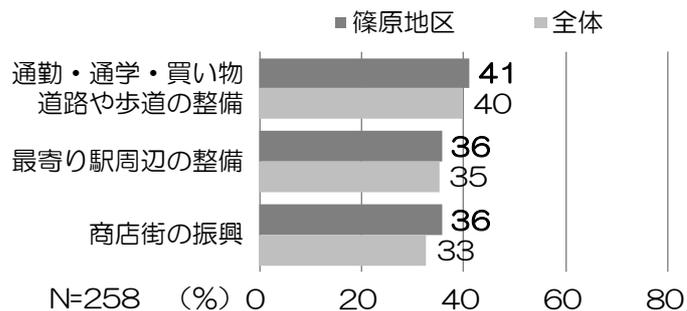
【充実すべきと思う公共サービス】では、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」、「最寄り駅周辺の整備」、「商店街の振興」と駅周辺や商店街の整備・振興に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「高齢者や障害者が移動しやすいまちづくり・環境整備」（34%）は、全体集計と比較すると5ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】 <上位4項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位3項目>



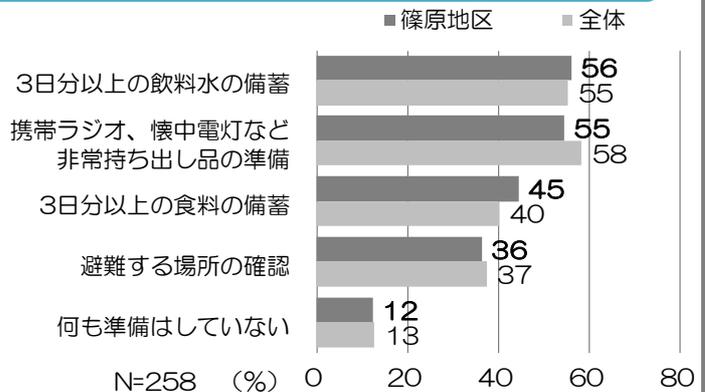
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q：あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)

地震があった場合の備えとしては、「3日分以上の飲料水の備蓄」、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」が5割半ば、「3日分以上の食料の備蓄」などが4割半ば程度で、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数程度の方の備蓄が完全でないと言えます。

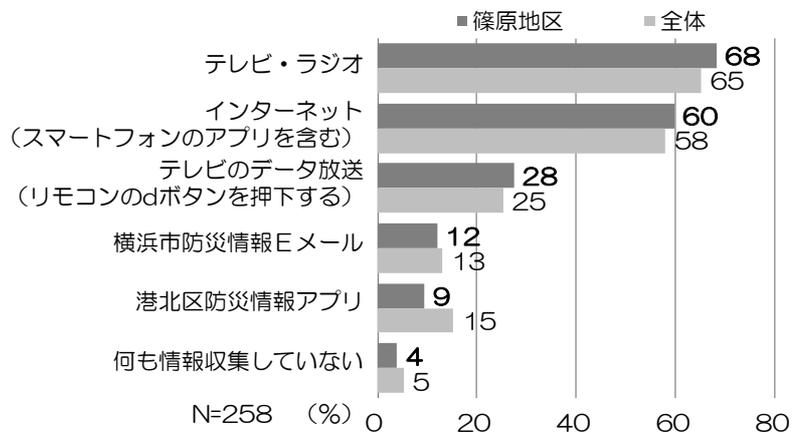


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q：あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。(〇はいくつでも)

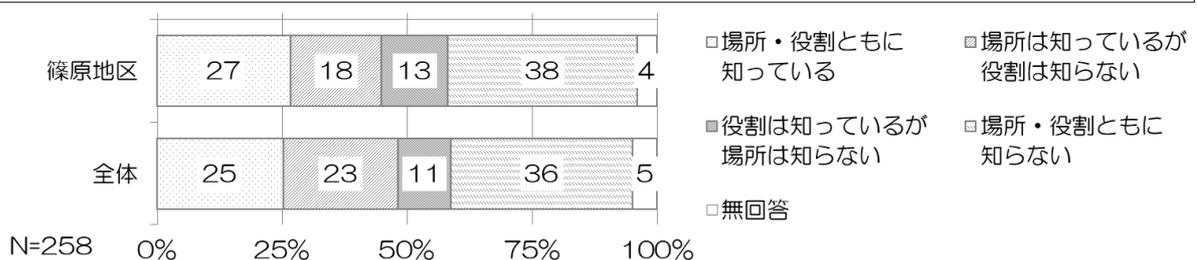
気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、それぞれ約1割となっています。



◆避難場所や避難所の役割について (地域防災拠点)

Q：あなたは、地域防災拠点 (指定避難所) の場所や役割を知っていますか。(〇は1つだけ)
※地域防災拠点 (指定避難所)：一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は4割半ば、「役割」まで知っている方は、2割半ば程度という結果になっています。「場所・役割とも知らない」は約4割でした。

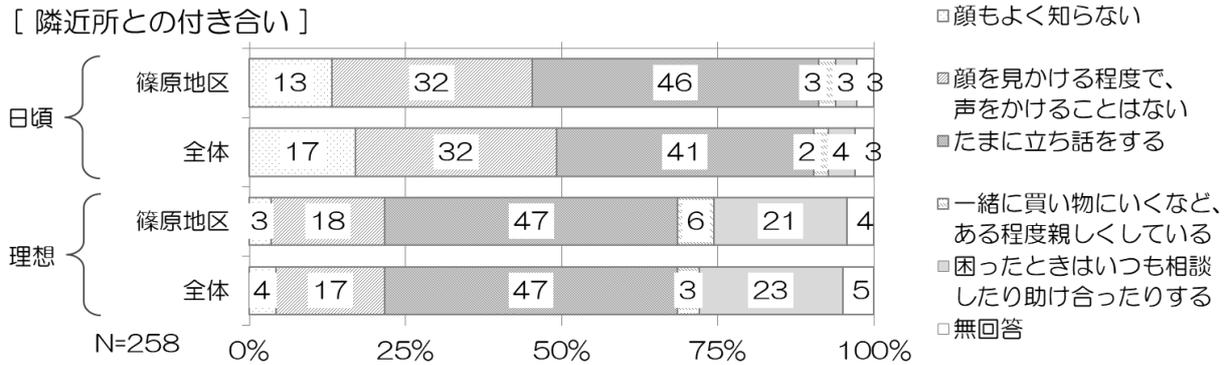


4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q：あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。（○は1つだけ）



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が4割半ば（45%）と、全体集計（49%）よりもやや少なくなっていますが、区全体の結果と同様、近隣との関係は薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割程度、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割程度など、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

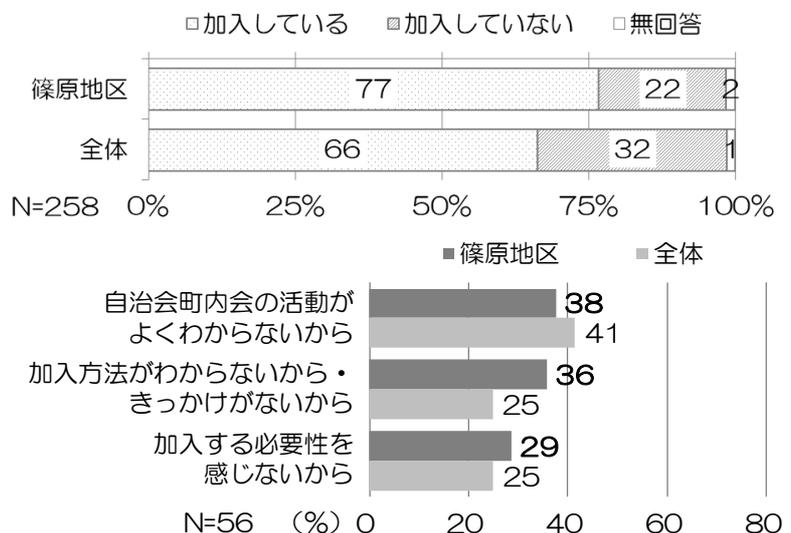
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由 <上位3項目>

自治会町内会への加入は7割半ばを超える

Q：あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。（○は1つだけ）また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。 <自治会町内会に「2.加入していない」と回答した方（○は3つまで）>

自治会町内会へ加入しているのは77%で、全体集計（66%）と比較すると、割合が多くなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」、「加入する必要性を感じないから」が上位となっています。



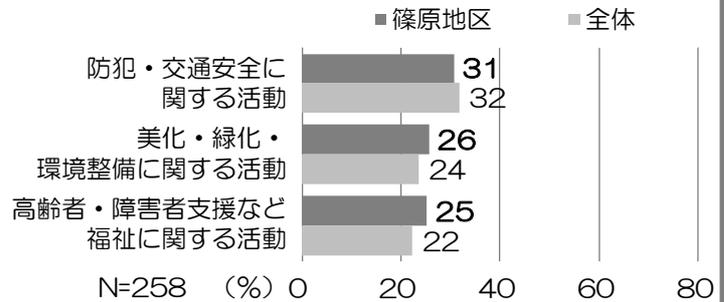
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「高齢者・障害者支援など福祉」が上位3項目

Q：今後、あなたが、お住まいの地域（自治会町内会等）で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。（○はいくつでも）

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が約3割、「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が2割半ばで、上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

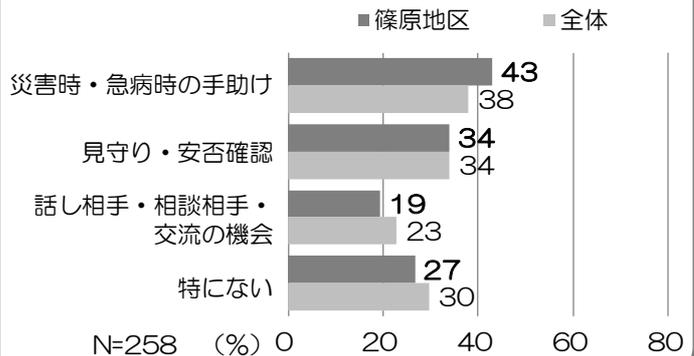
回答者の7割半ばの人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」が4割以上、「見守り・安否確認」が3割以上、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。

Q：日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。（○はいくつでも）

「災害時、急病時の手助け」（43%）は、全体集計と比べて多くなっています。

なお、「特にない」と回答したのは約2割半ばで、7割半ばの方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

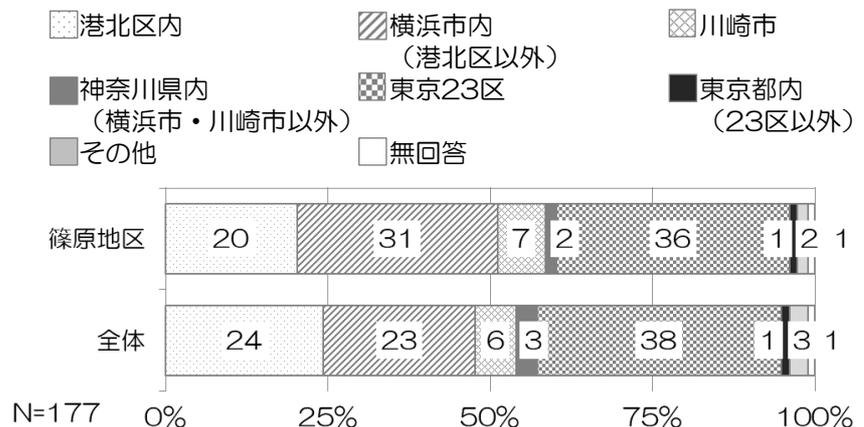


5. 通勤・通学場所

Q：あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。（○は1つだけ）〈ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方〉

主な通勤・通学場所は、横浜市内が5割程度で、港北区内はそのうち4割程度の割合となっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学がやや多くなっています。



菊名地区

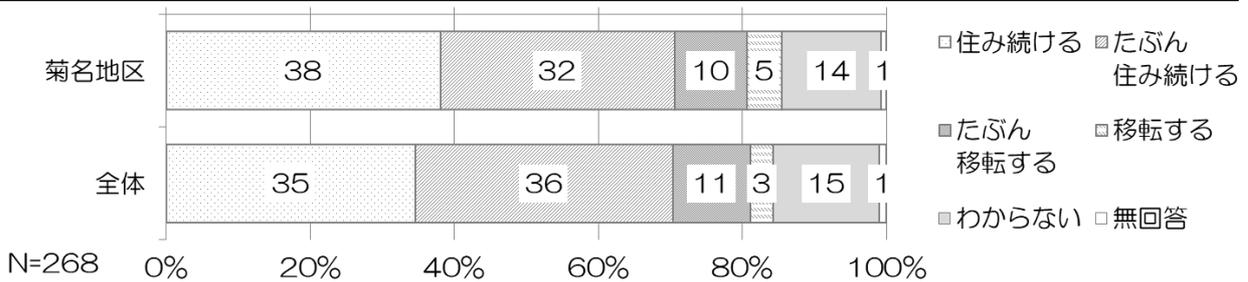
1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割

Q：あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っっていますか。（○は1つだけ）

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割で、継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計（71%）と比較すると、割合はほぼ同率となっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」（81%）、
「住んでいる場所に愛着を感じているから」（50%）が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

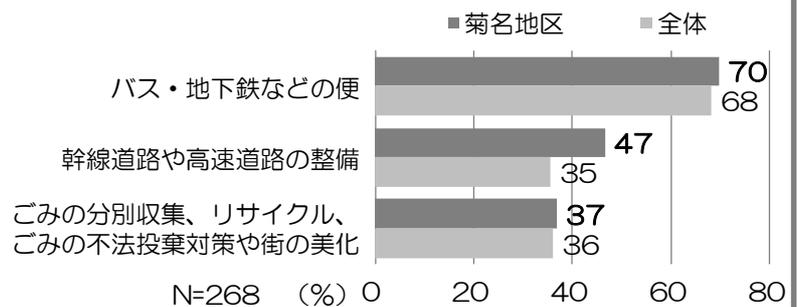
Q：あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。（全31項目から選択。○はいくつでも）

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が70%で最も多くなっています。また、「幹線道路や高速道路の整備」（47%）や「図書館・図書の貸出取次サービス窓口の整備や読書習慣の推進」（26%）が全体集計と比較すると割合が多いです。

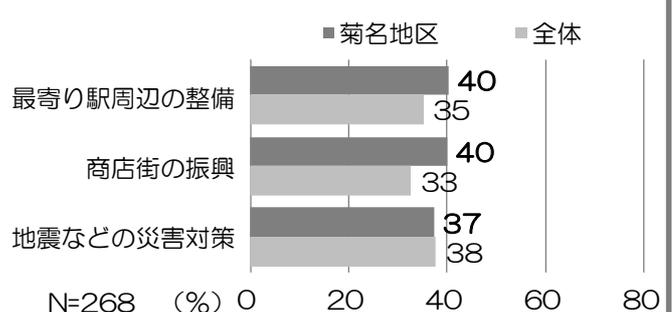
【充実すべきと思う公共サービス】では、「最寄り駅周辺の整備」、「商店街の振興」、「地震などの災害対策」と駅周辺や商店街の整備・振興に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「商店街の振興」（40%）は、全体集計と比較すると7ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】＜上位3項目＞



【充実すべきと思う公共サービス】＜上位3項目＞



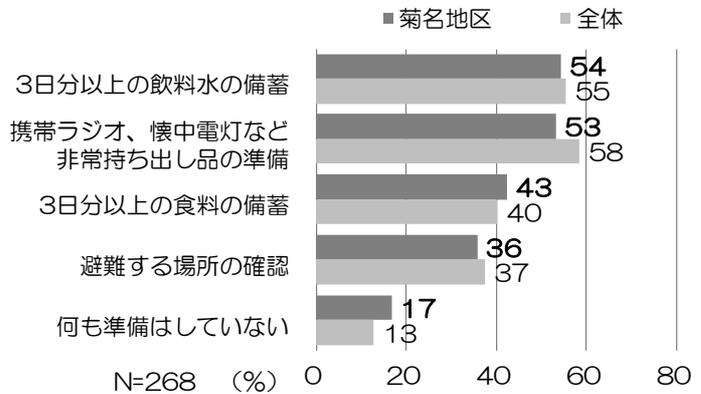
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q：あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。（〇はいくつでも）

地震があった場合の備えとしては、「3日分以上の飲料水の備蓄」、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」が5割半ば、「3日分以上の食料の備蓄」などが4割強で、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数程度の方の備蓄が完全でないと言えます。

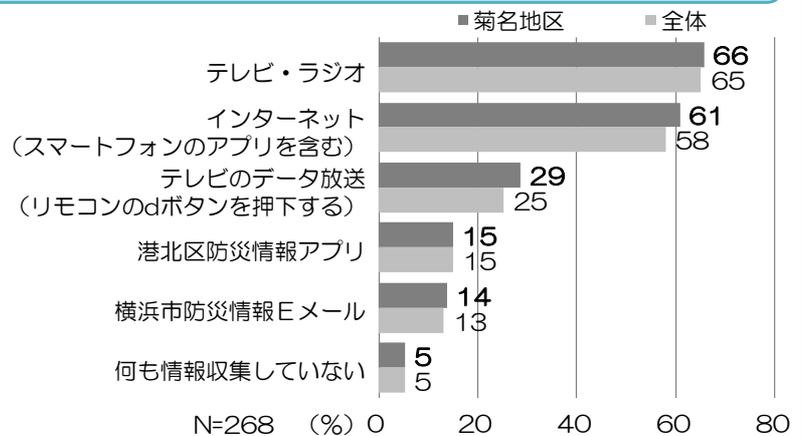


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q：あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。（〇はいくつでも）

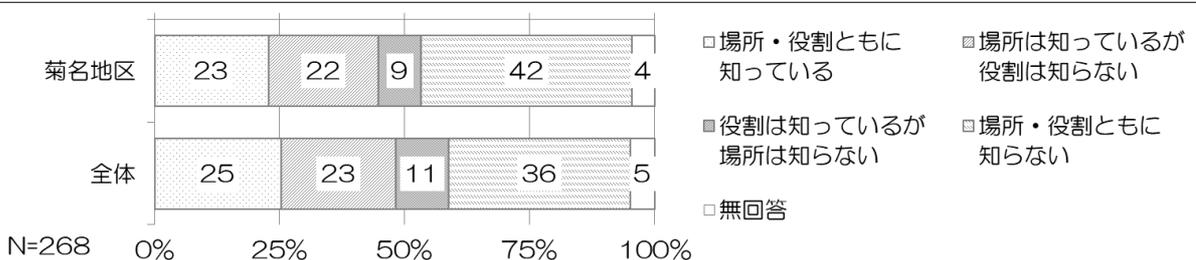
気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。



◆避難場所や避難所の役割について（地域防災拠点）

Q：あなたは、地域防災拠点（指定避難所）の場所や役割を知っていますか。（〇は1つだけ）
※地域防災拠点（指定避難所）：一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は4割半ば、「役割」まで知っている方は、2割強という結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は約4割でした。



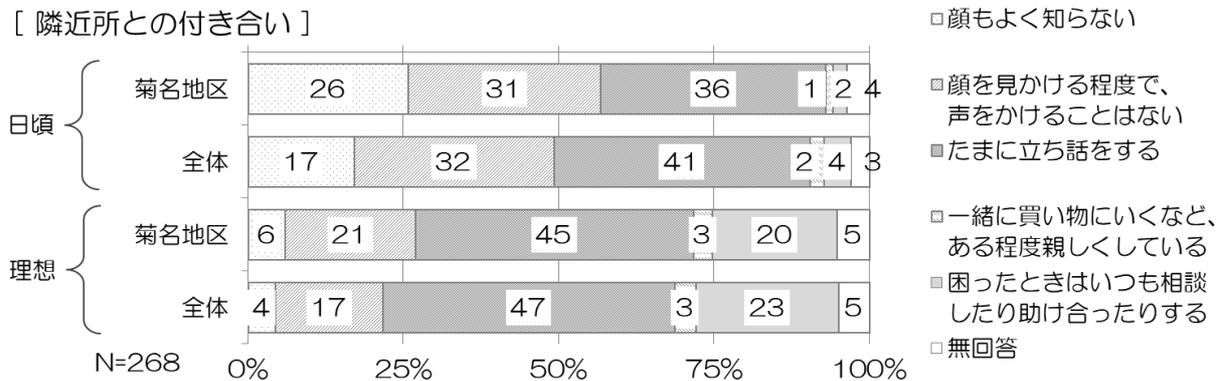
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q：あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。（○は1つだけ）

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が5割半ば（57%）と、全体集計（49%）よりも多くなっており、区全体と比べると近隣との関係はより薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割半ば、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割など、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

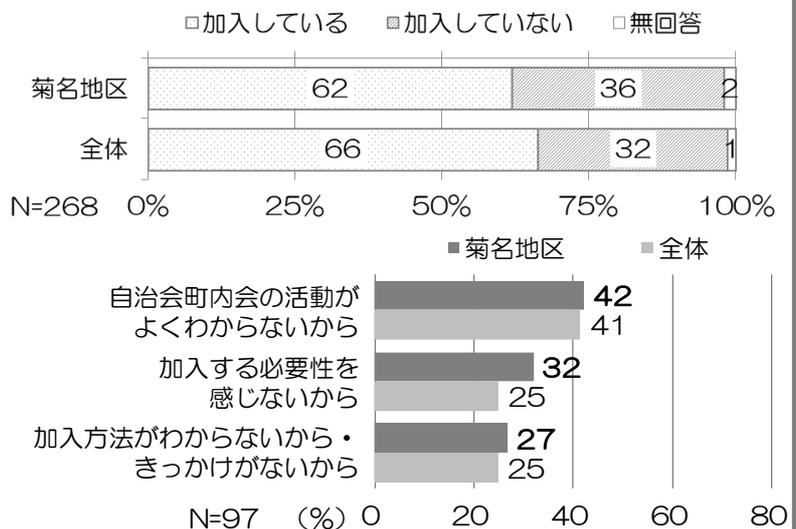
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由 <上位3項目>

自治会町内会への加入は6割に留まる

Q：あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。（○は1つだけ）また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。 <自治会町内会に「2.加入していない」と回答した方（○は3つまで）>

自治会町内会へ加入しているのは62%で、全体集計（66%）と比較すると、やや少ない割合となっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入する必要性を感じないから」、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」が上位となっています。



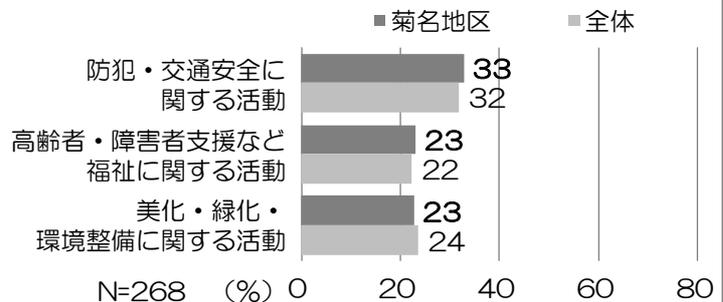
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「高齢者・障害者支援など福祉」、「美化・緑化・環境整備」が上位3項目

Q：今後、あなたが、お住まいの地域（自治会町内会等）で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。（〇はいくつでも）

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が3割以上、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」、「美化・緑化・環境整備に関する活動」が2割以上で上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

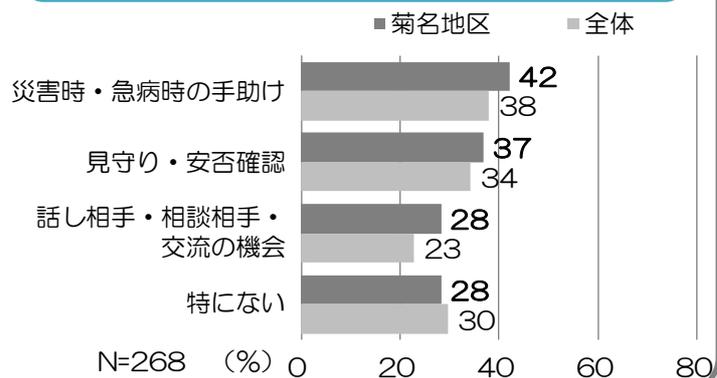
回答者の7割の人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」が約4割、「見守り・安否確認」が3割半ば、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。

Q：日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。（〇はいくつでも）

上位3項目は、全体集計と比べて多くなっています。

なお、「特にない」と回答したのは約3割で、7割の方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

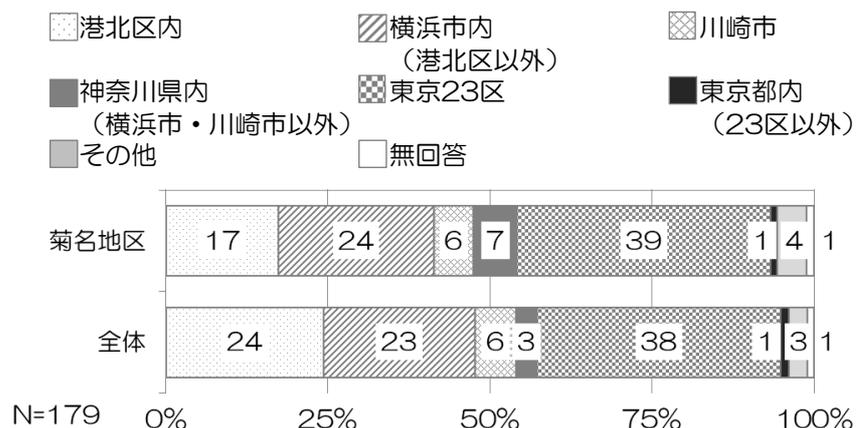


5. 通勤・通学場所

Q：あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。（〇は1つだけ）〈ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方〉

主な通勤・通学場所は、横浜市内が4割程度で、港北区内はそのうち4割程度の割合となっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学がやや少なくなっています。



城郷地区

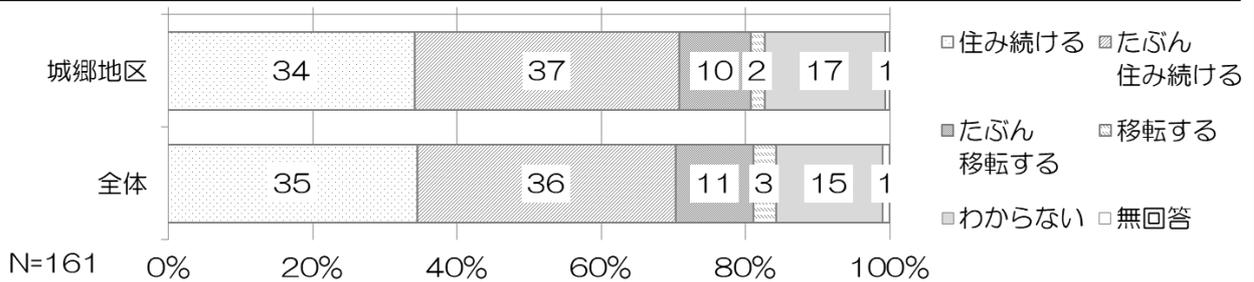
1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割を超える

Q：あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っていますか。（○は1つだけ）

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割を超え、継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計（71%）と比較すると、割合は同率となっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「住んでいる場所に愛着を感じているから」（55%）、「交通が便利だから」（52%）が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

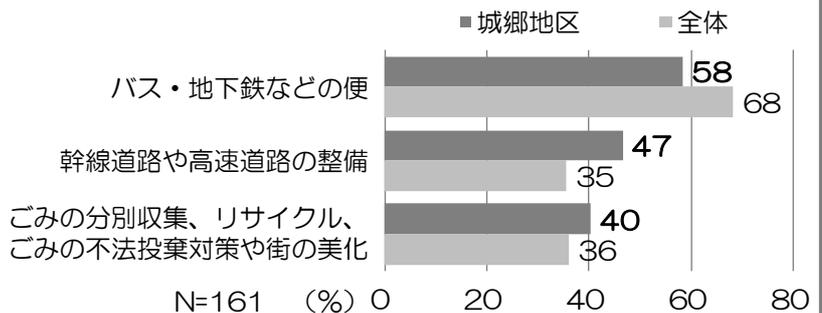
【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が58%で最も多いですが、全体集計と比較すると割合が少ないです。また、「幹線道路や高速道路の整備」（47%）や「病院や救急医療など地域医療」（34%）が全体集計と比較すると割合が多いです。

【充実すべきと思う公共サービス】では、「商店街の振興」、「最寄り駅周辺の整備」、「地震などの災害対策」と商店街や駅周辺の振興・整備に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

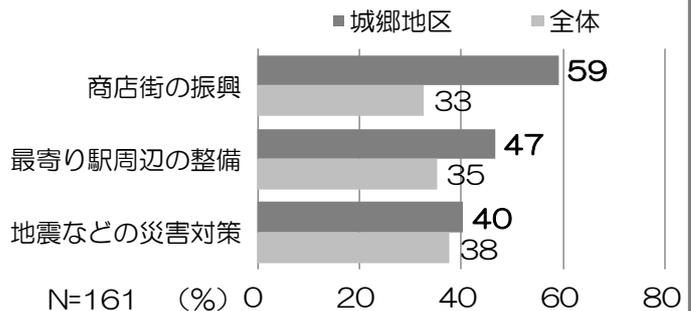
「商店街の振興」（59%）は、全体集計と比較すると26ポイント多くなっています。

Q：あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。（全31項目から選択。○はいくつでも）

【満足している公共サービス】＜上位3項目＞



【充実すべきと思う公共サービス】＜上位3項目＞



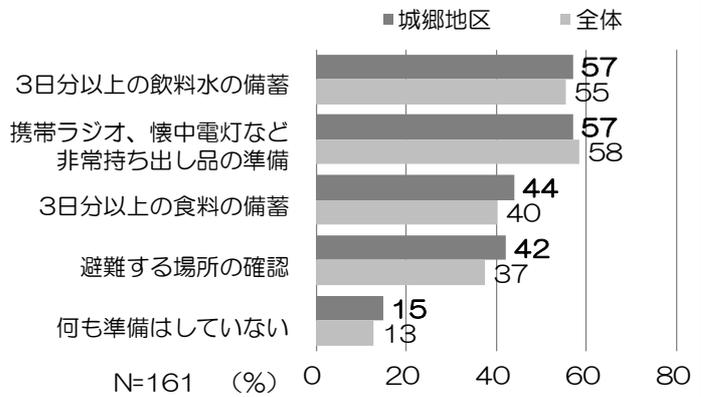
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q：あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。（〇はいくつでも）

地震があった場合の備えとしては、「3日分以上の飲料水の備蓄」、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」が5割半ば、「3日分以上の食料の備蓄」などが4割半ば程度となり、全体集計とほぼ同率で、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数程度の方の備蓄が完全でないとと言えます。

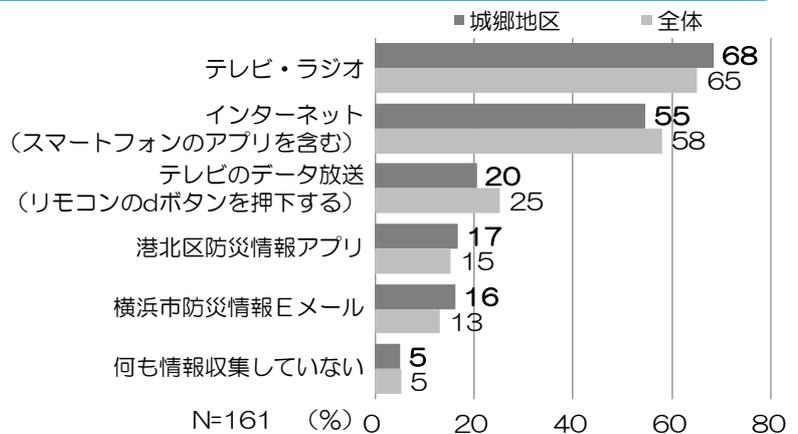


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q：あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。（〇はいくつでも）

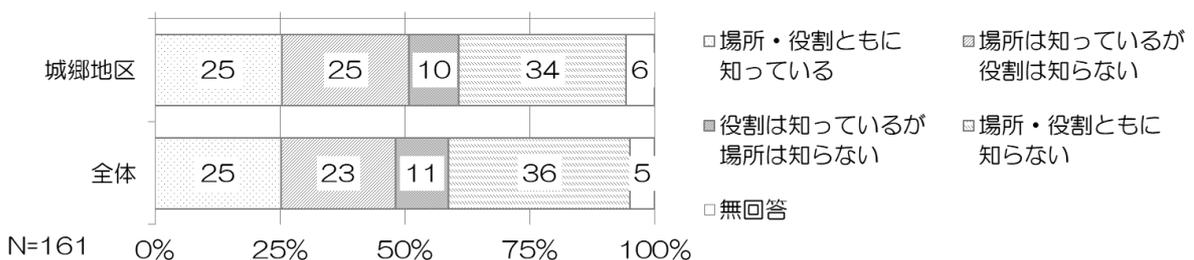
気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。



◆避難場所や避難所の役割について（地域防災拠点）

Q：あなたは、地域防災拠点（指定避難所）の場所や役割を知っていますか。（〇は1つだけ）
※地域防災拠点（指定避難所）：一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数、「役割」まで知っている方は、2割半ばという結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は3割半ばでした。



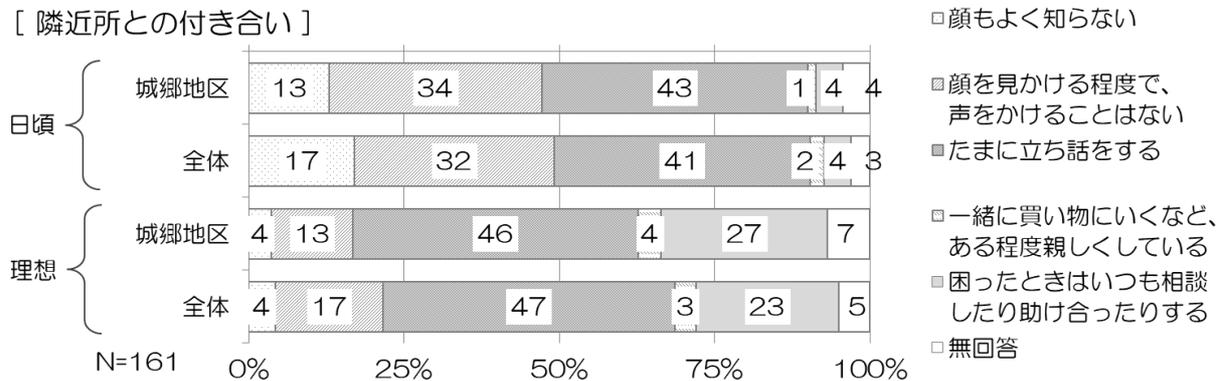
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q：あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。（○は1つだけ）

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が4割程度（47%）と、全体集計（49%）より若干少なくなっていますが、区全体の結果と同様、近隣との関係は薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は1割半ば、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割半ばなど、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

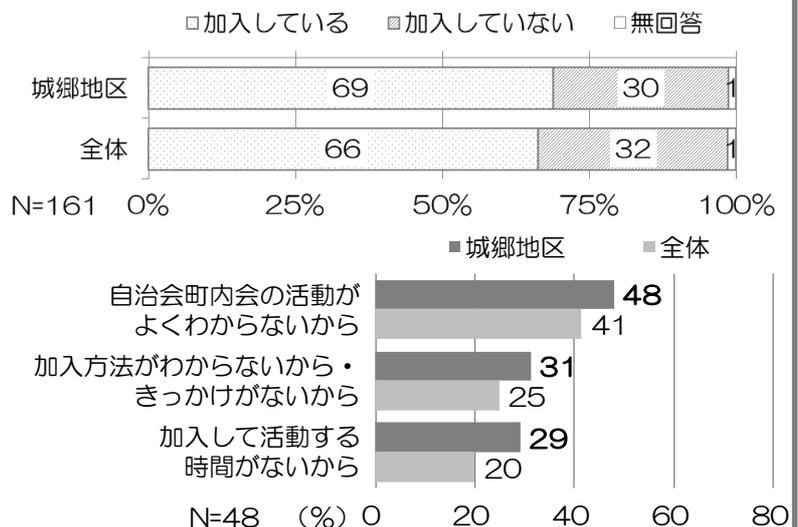
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由 <上位3項目>

自治会町内会への加入は約7割

Q：あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。（○は1つだけ）また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。 <自治会町内会に「2.加入していない」と回答した方（○は3つまで）>

自治会町内会へ加入しているのは69%で、全体集計（66%）と比較すると、やや多い割合となっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」、「加入して活動する時間がないから」が上位となっています。



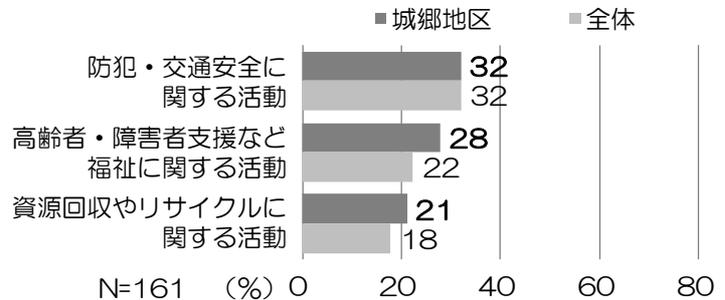
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「高齢者・障害者支援など福祉」、「資源回収やリサイクル」が上位3項目

Q：今後、あなたが、お住まいの地域（自治会町内会等）で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。（〇はいくつでも）

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」と「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が約3割、「資源回収やリサイクルに関する活動」が約2割で上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

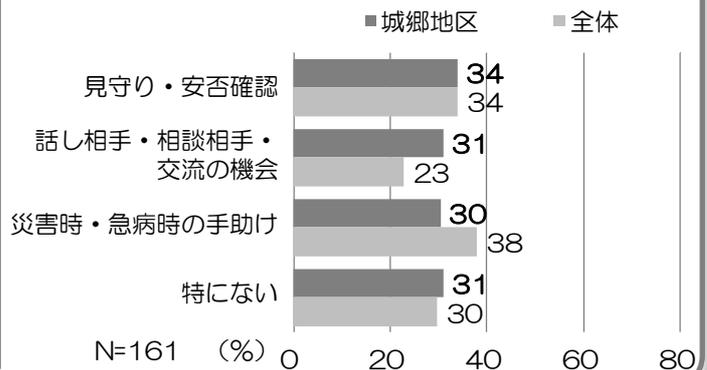
回答者の7割の人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「見守り・安否確認」、「話し相手・相談相手・交流の機会」、「災害時・急病時の手助け」が3割以上の比率で上位となっています。

「話し相手・相談相手・交流の機会」(31%)は、全体集計と比べて多くなっています。

なお、「特にない」と回答したのは約3割で、7割の方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

Q：日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。（〇はいくつでも）

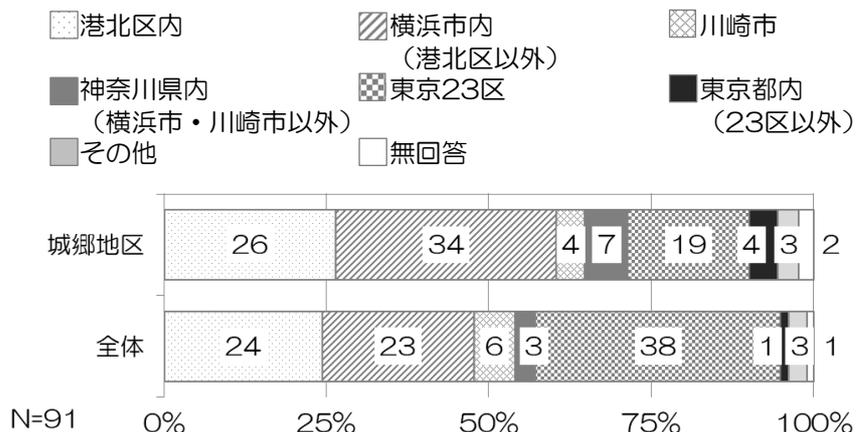


5. 通勤・通学場所

Q：あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。（〇は1つだけ）〈ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方〉

主な通勤・通学場所は、横浜市内が6割で、港北区内はそのうち4割強の割合となっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学が多くなっています。



日吉地区

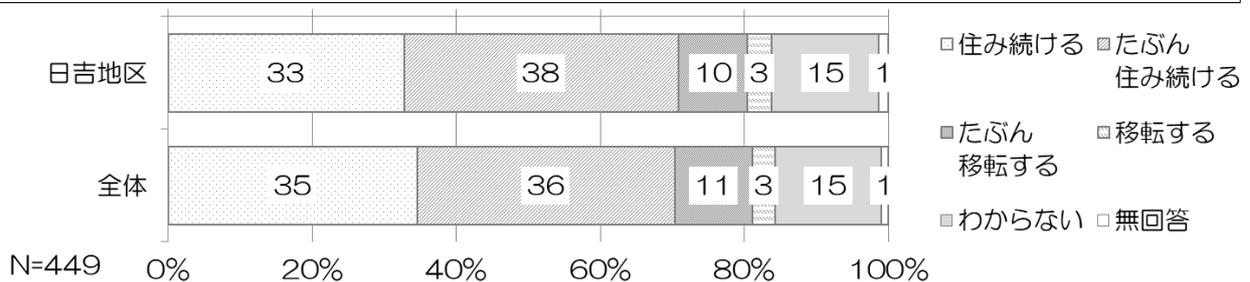
1. 居留意向

港北区に住み続けると思っている方が7割を超える

Q：あなたは、これからもずっと港区内に住み続けようと思っっていますか。（○は1つだけ）

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割を超え、継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計（71%）と比較すると、割合は同率となっています。

このうち、港区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」（73%）、
「住んでいる場所に愛着を感じているから」（55%）が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

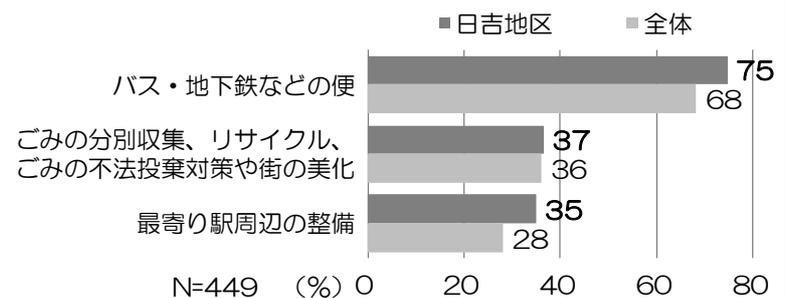
【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が75%で最も多くなっています。また、「バス・地下鉄などの便」（75%）や「最寄り駅周辺の整備」（35%）が全体集計と比較すると割合が多いです。

【充実すべきと思う公共サービス】では、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」、「地震などの災害対策」、「病院や救急医療など地域医療」と安心・安全に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

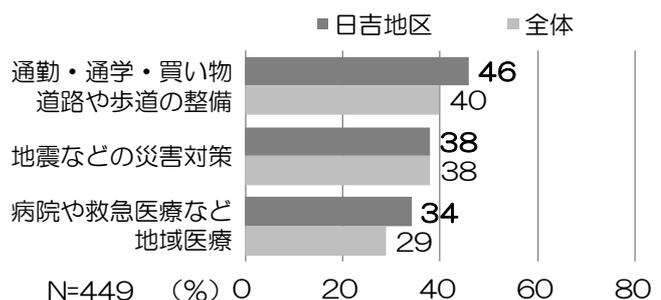
「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」（46%）や「図書館・図書の出取次サービス窓口の整備や読書習慣の推進」（31%）は、全体集計と比較すると6ポイント多くなっています。

Q：あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。（全31項目から選択。○はいくつでも）

【満足している公共サービス】 <上位3項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位3項目>



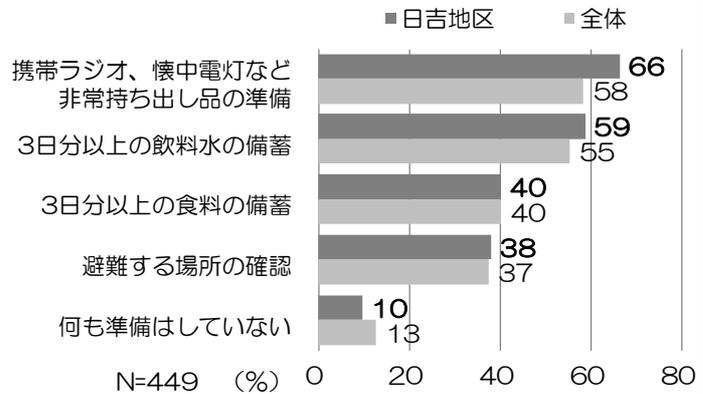
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q：あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。（〇はいくつでも）

地震があった場合の備えとしては、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」は6割半ば、「3日分以上の飲料水の備蓄」は約6割、「3日分以上の食料の備蓄」などが4割程度となり、全体集計と比べやや多いですが、在宅避難に必要な飲料水や食料について、約4割の方の備蓄が完全でないと言えます。

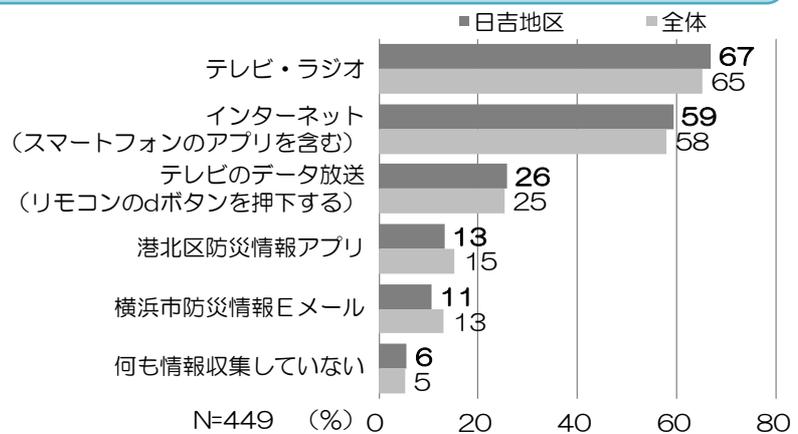


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q：あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。（〇はいくつでも）

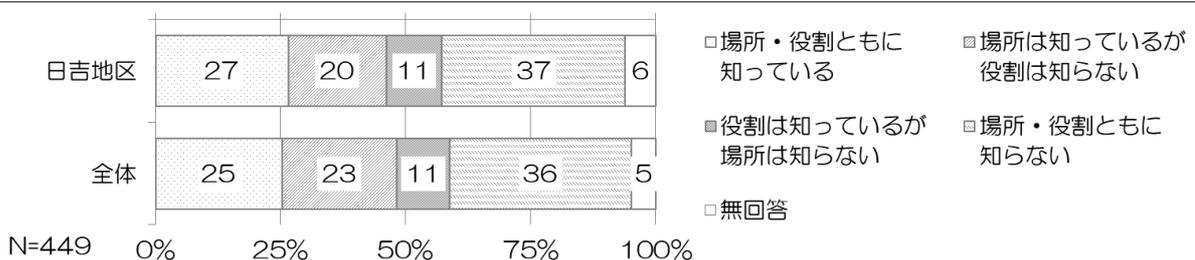
気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、それぞれ約1割となっています。



◆避難場所や避難所の役割について（地域防災拠点）

Q：あなたは、地域防災拠点（指定避難所）の場所や役割を知っていますか。（〇は1つだけ）
※地域防災拠点（指定避難所）：一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数程度、「役割」まで知っている方は、2割半ばという結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は3割半ばでした。

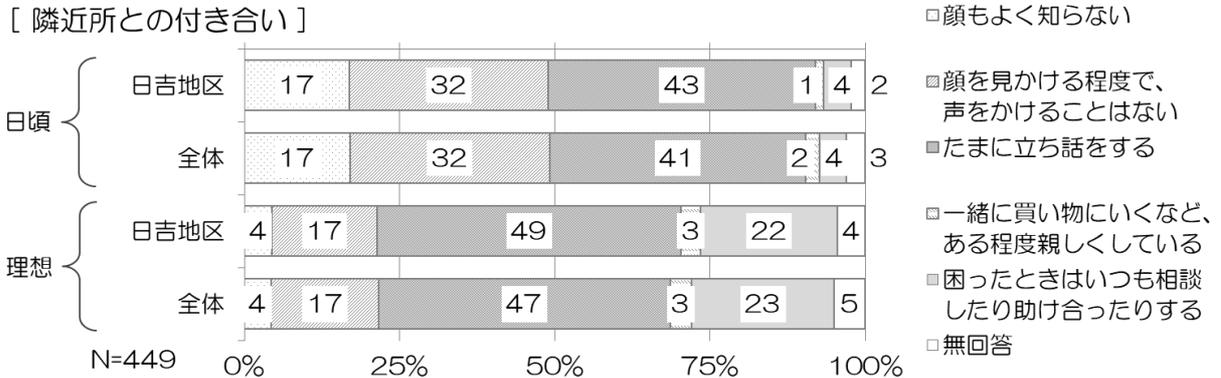


4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q：あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。（○は1つだけ）



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が半数程度（49%）と、全体集計（49%）と同率となっており、区全体の結果と同様、近隣との関係は薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割程度、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割程度など、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

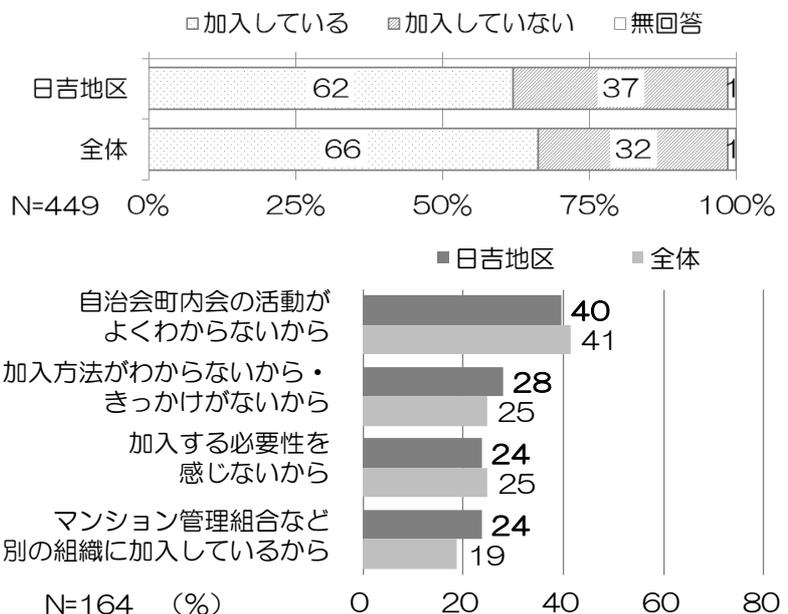
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由〈上位4項目〉

自治会町内会への加入は6割に留まる

Q：あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。（○は1つだけ）また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。〈自治会町内会に「2.加入していない」と回答した方（○は3つまで）〉

自治会町内会へ加入しているのは62%で、全体集計（66%）と比較すると、割合がやや少なくなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」、「加入する必要性を感じないから」などが上位となっています。



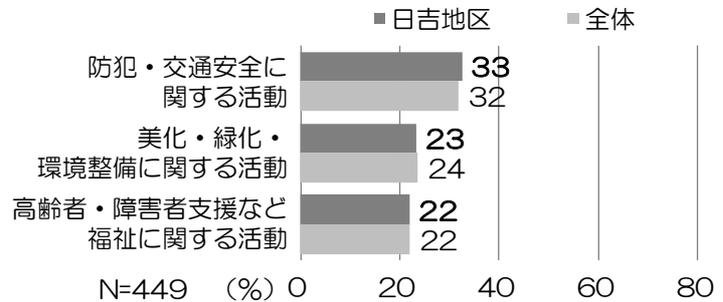
◆**力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉**

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「高齢者・障害者支援など福祉」が上位3項目

Q：今後、あなたが、お住まいの地域（自治会町内会等）で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。（○はいくつでも）

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が3割以上、「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が2割以上で上位の項目となっています。



◆**高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉**

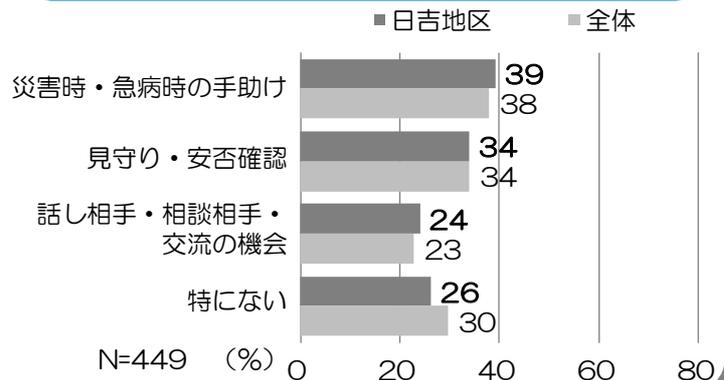
※「特にない」の回答は除く

回答者の7割半ばの人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」、「見守り・安否確認」が3割以上、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。

Q：日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。（○はいくつでも）

なお、「特にない」と回答したのは約2割半ばで、7割半ばの方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

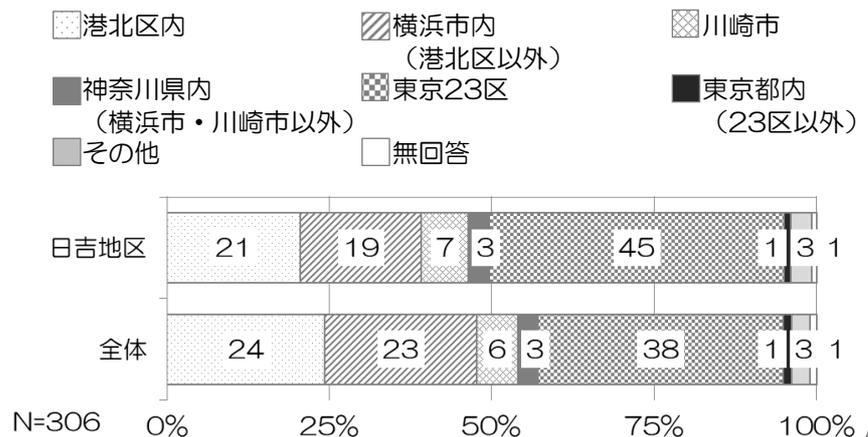


5. 通勤・通学場所

Q：あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。（○は1つだけ）〈ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方〉

主な通勤・通学場所は、**横浜市内が4割で、港北区内はそのうち半数程度の割合**となっています。

全体集計と比べると、**横浜市内への通勤・通学が少なくなっています。**



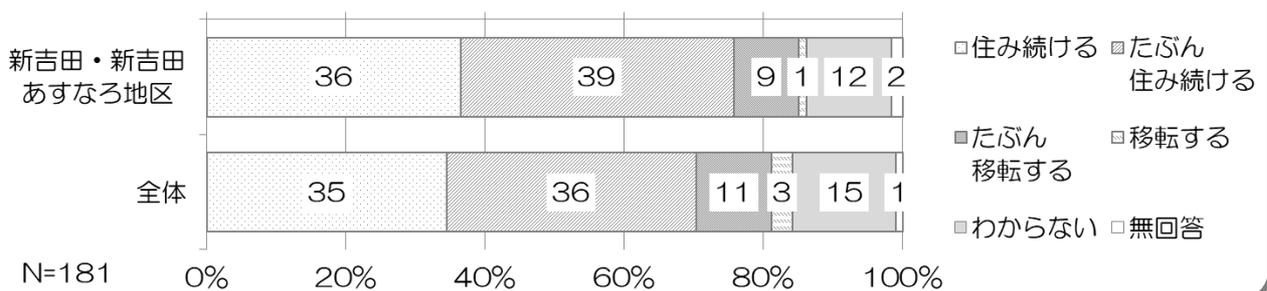
新吉田・新吉田あすなろ地区

1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割を超える

Q：あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っ
ていますか。（○は1つだけ）

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割を超え、
継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計（71%）と
比較すると、割合はやや多くなっています。このうち、港北区内に
住み続けたい理由は、「住んでいる場所に愛着を感じているから」（69%）、
「交通が便利だから」（58%）が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

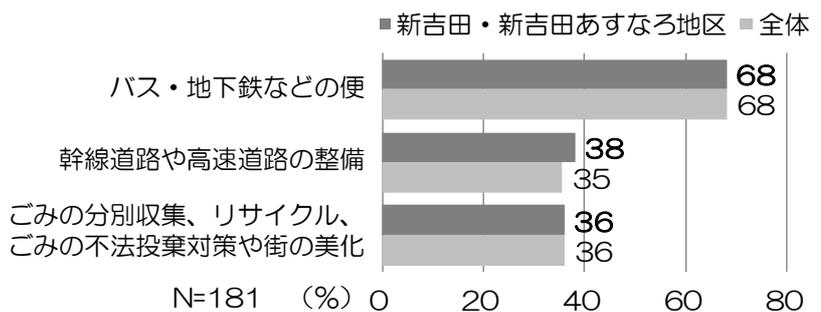
Q：あなたが、満足している公共サービスは何ですか。
また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何
ですか。（全31項目から選択。○はいくつでも）

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が68%で最も多くなっています。一方、「公園の整備」（24%）は全体集計と比較すると6ポイント少なくなっています。

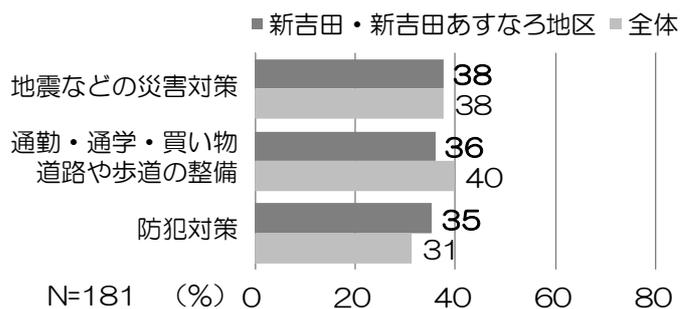
【充実すべきと思う公共サービス】では、「地震などの災害対策」、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」、「防犯対策」と安心・安全に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「河川改修と水辺環境の整備」（30%）は、全体集計と比較すると7ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】＜上位3項目＞



【充実すべきと思う公共サービス】＜上位3項目＞



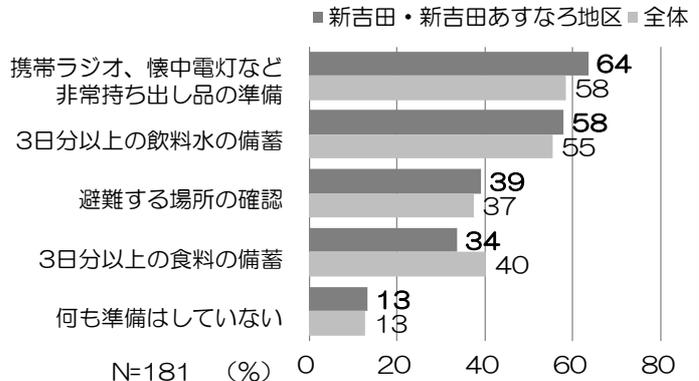
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q：あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。（〇はいくつでも）

地震があった場合の備えとしては、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」、「3日分以上の飲料水の備蓄」は6割、「避難する場所の確認」などが4割程度となり、全体集計と比べやや多いですが、在宅避難に必要な飲料水や食料について、約4割の方の備蓄が完全でないと言えます。

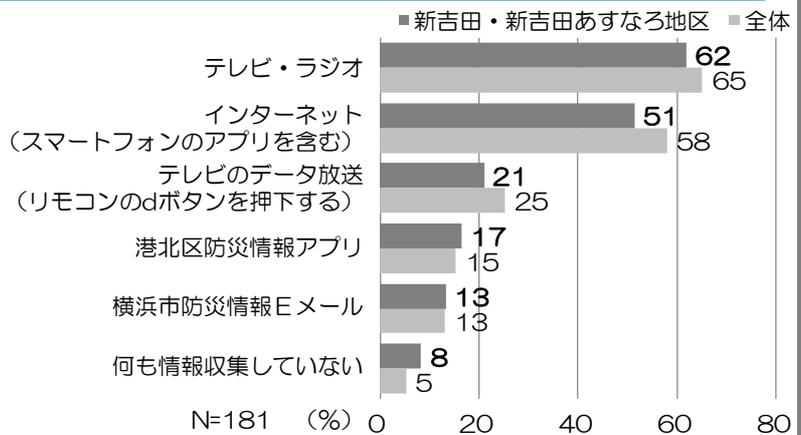


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q：あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。（〇はいくつでも）

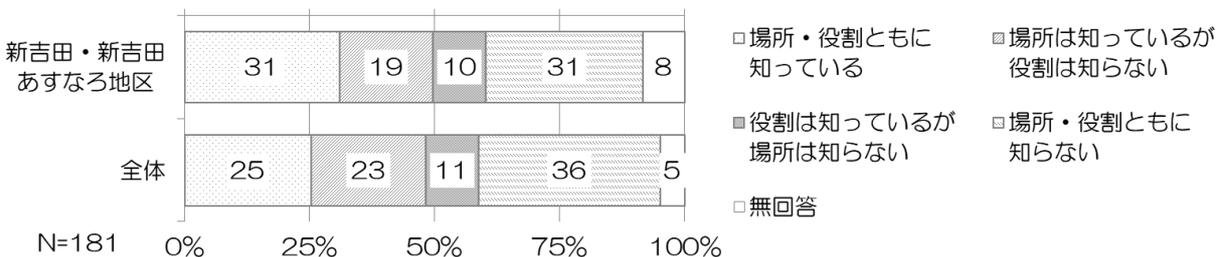
気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。
「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。



◆避難場所や避難所の役割について（地域防災拠点）

Q：あなたは、地域防災拠点（指定避難所）の場所や役割を知っていますか。（〇は1つだけ）
※地域防災拠点（指定避難所）：一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数、「役割」まで知っている方は、3割程度という結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は約3割でした。

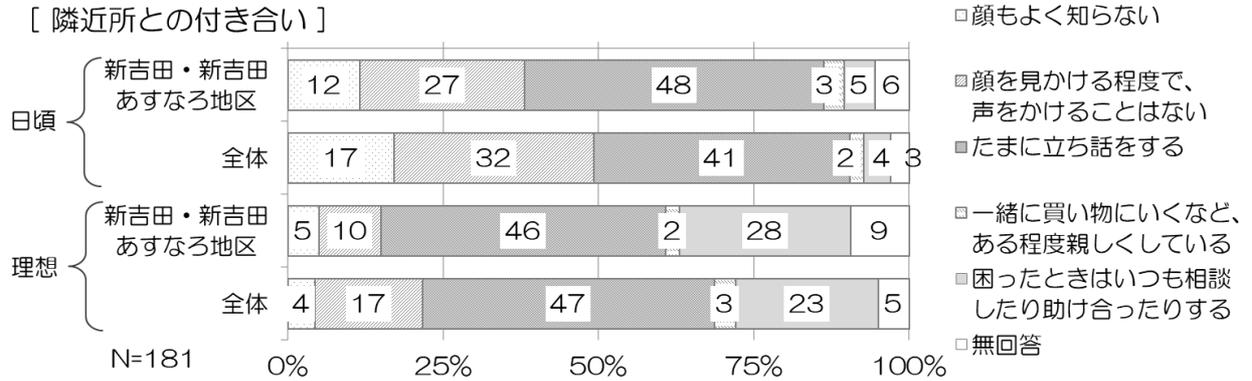


4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多い

Q：あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。（○は1つだけ）



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が4割程度（39%）と、全体集計（49%）よりも少なくなっており、区全体の結果と比べると、近隣との付き合いが多いと言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は1割半ば、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は約3割など、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

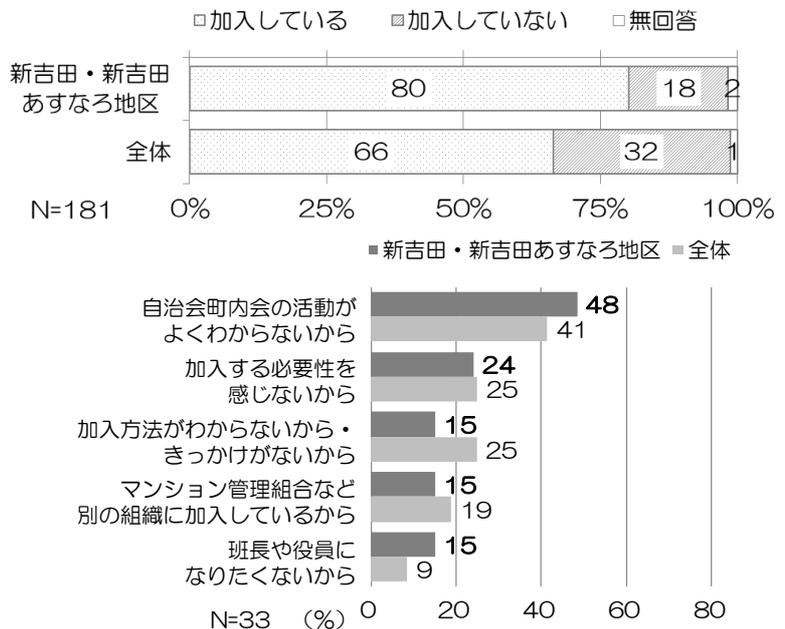
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由〈上位5項目〉

自治会町内会への加入は8割

Q：あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。（○は1つだけ）また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。〈自治会町内会に「2.加入していない」と回答した方（○は3つまで）〉

自治会町内会へ加入しているのは80%で、全体集計（66%）と比較すると、割合が多くなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入する必要性を感じないから」などが上位となっています。



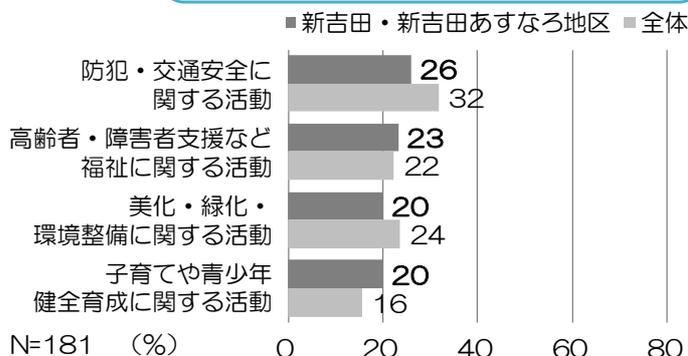
◆力を入れてほしい地域活動〈上位4項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「高齢者・障害者支援など福祉」等が上位4項目

Q：今後、あなたが、お住まいの地域（自治会町内会等）で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。（〇はいくつでも）

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」、「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「子育てや青少年健全育成に関する活動」が2割以上の割合で上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位4項目〉

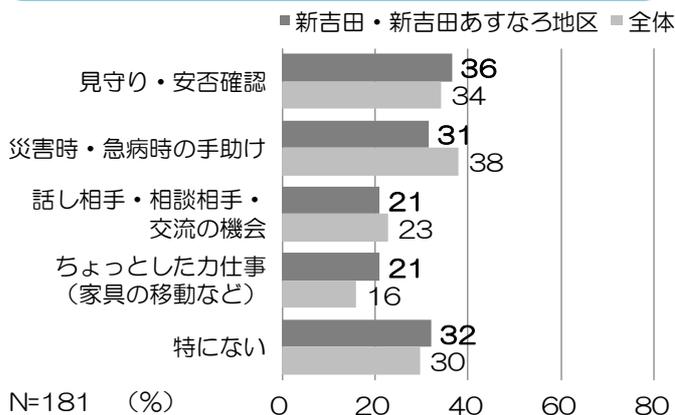
※「特にない」の回答は除く

回答者の7割の人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「見守り・安否確認」、「災害時・急病時の手助け」が3割以上、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」などが上位の項目となっています。「災害時・急病時の手助け」（31%）は、全体集計と比べて少ない傾向ではありますが、上位です。

なお、「特にない」と回答したのは約3割で、7割の方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

Q：日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。（〇はいくつでも）

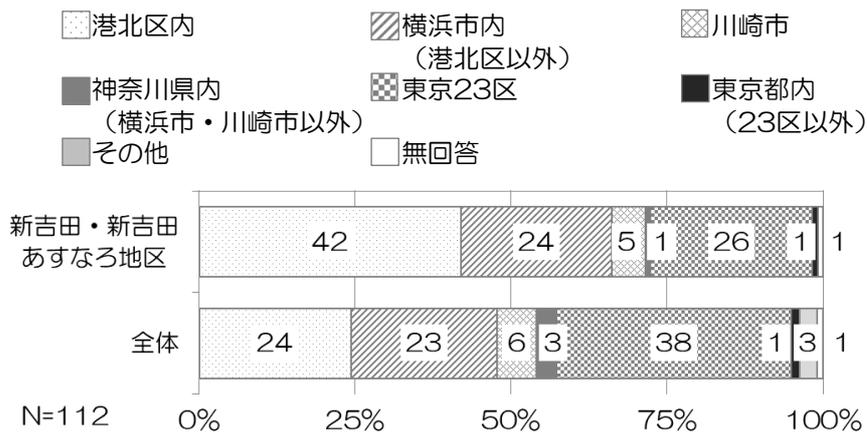


5. 通勤・通学場所

Q：あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。（〇は1つだけ）〈ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方〉

主な通勤・通学場所は、横浜市内が6割半ばで、港北区内はそのうち6割半ばとなっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学が多くなっています。



高田地区

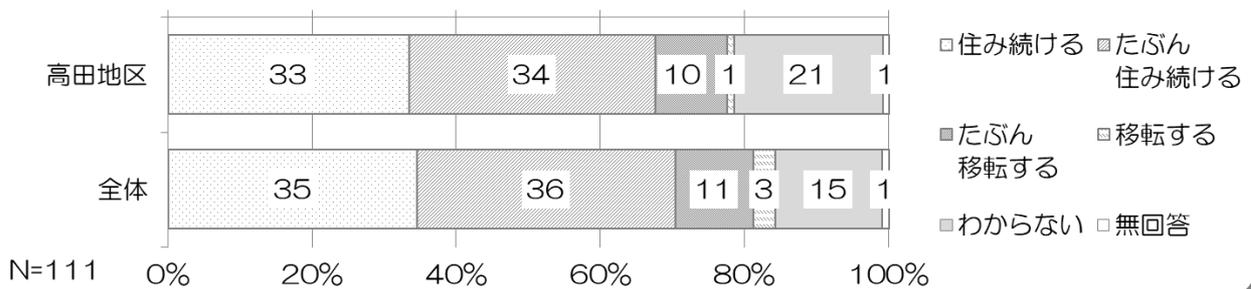
1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割弱

Q：あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っっていますか。(○は1つだけ)

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割弱で、継続して住み続けた方が多くなっています。全体集計(71%)と比較すると割合はやや少なくなっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」(55%)、「住んでいる場所に愛着を感じているから」(52%)が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

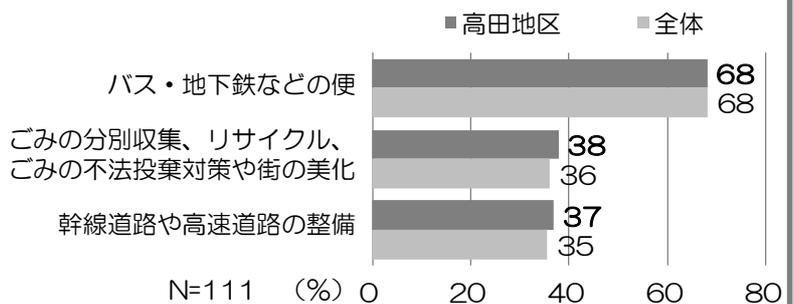
Q：あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。(全31項目から選択。○はいくつでも)

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が68%で最も多くなっています。また、「高齢者や障害者が移動しやすいまちづくり・環境整備(駅舎へのエレベーターの設置など)」(28%)が全体集計と比較すると割合が多いです。

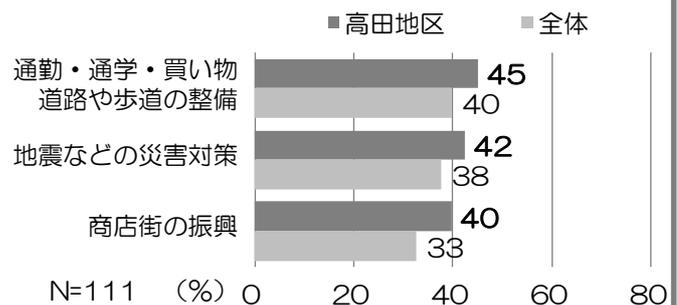
【充実すべきと思う公共サービス】では、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」、「地震などの災害対策」、「商店街の振興」と安心・安全に関する項目を中心に充実すべきとの声が上がっています。

「ごみの分別収集、リサイクル、ごみの不法投棄対策や街の美化」(32%)と「身近な住民窓口サービス」(27%)は、全体集計と比較すると8ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】 <上位3項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位3項目>



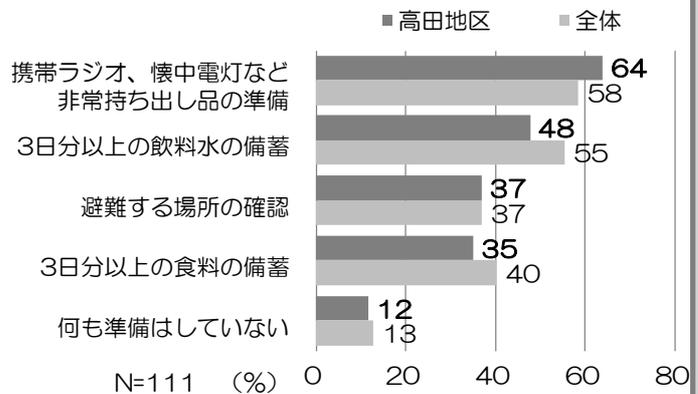
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q：あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。（〇はいくつでも）

地震があった場合の備えとしては、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」は6割半ば、「3日以上の飲料水の備蓄」は5割程度、「避難する場所の確認」などが4割程度となり、非常持ち出し品の準備を除き、全体集計と比べ若干少なく、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数程度の方の備蓄が完全でないと言えます。

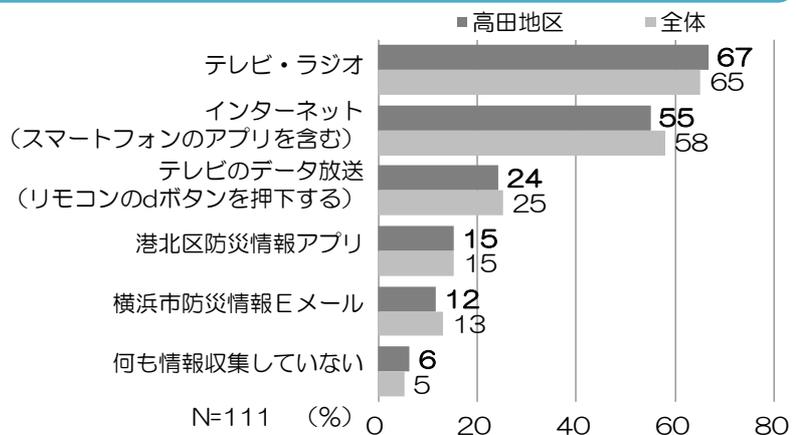


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q：あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。（〇はいくつでも）

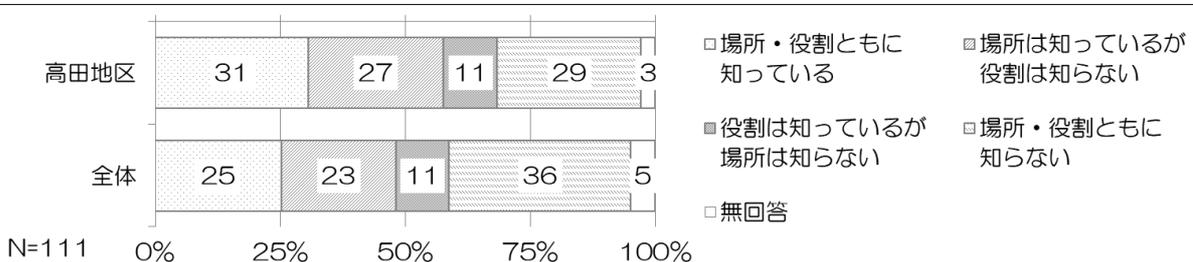
気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。



◆避難場所や避難所の役割について（地域防災拠点）

Q：あなたは、地域防災拠点（指定避難所）の場所や役割を知っていますか。（〇は1つだけ）
※地域防災拠点（指定避難所）：一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は6割程度、「役割」まで知っている方は、3割程度という結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は約3割でした。



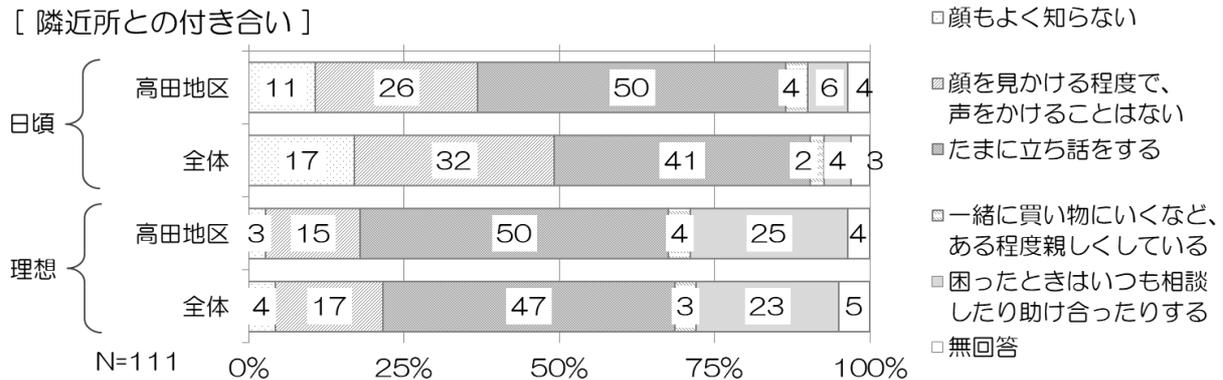
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多い

Q：あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。（○は1つだけ）

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が4割程度（37%）と、全体集計（49%）よりも少なくなっており、区全体の結果と比べると、近隣との付き合いが多いと言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割程度、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割半ばなど、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

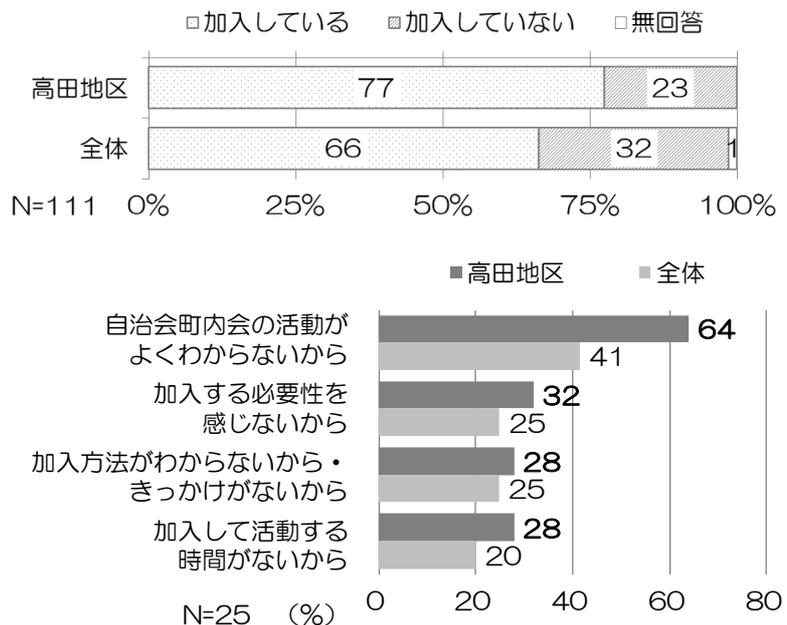
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由〈上位4項目〉

自治会町内会への加入は7割半ばを超える

Q：あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。（○は1つだけ）また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。〈自治会町内会に「2.加入していない」と回答した方（○は3つまで）〉

自治会町内会へ加入しているのは77%で、全体集計（66%）と比較すると、割合が多くなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入する必要性を感じないから」、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」などが上位となっています。



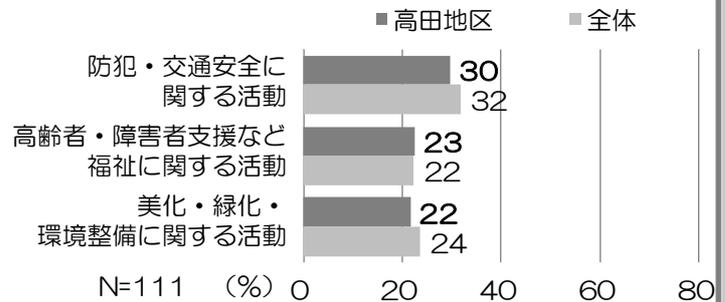
◆**力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉**

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「高齢者・障害者支援など福祉」、「美化・緑化・環境整備」が上位3項目

Q：今後、あなたが、お住まいの地域（自治会町内会等）で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。（〇はいくつでも）

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が約3割、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」、「美化・緑化・環境整備に関する活動」が2割以上で上位の項目となっています。



◆**高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉**

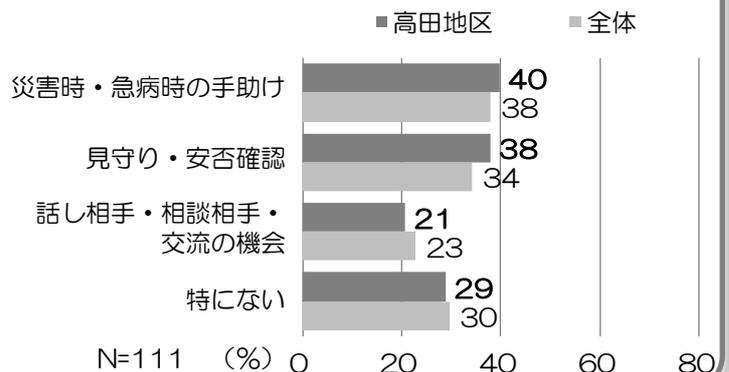
※「特にない」の回答は除く

回答者の7割の人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」、「見守り・安否確認」が約4割、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。

なお、「特にない」と回答したのは約3割で、7割の方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

Q：日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。（〇はいくつでも）

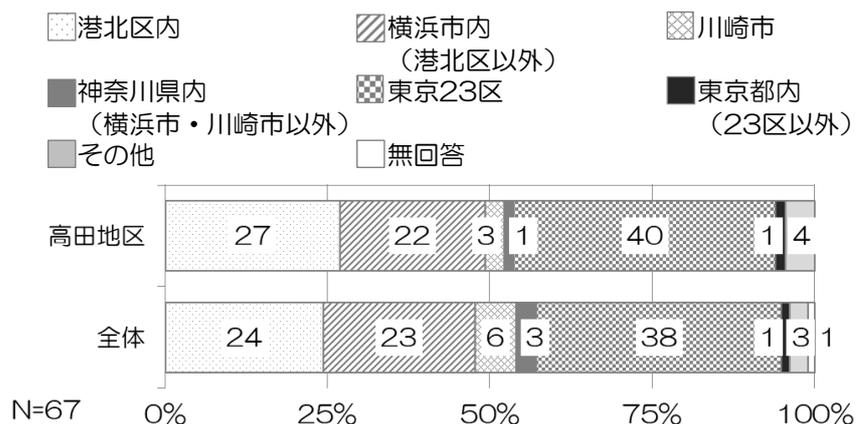


5. 通勤・通学場所

Q：あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。（〇は1つだけ） <ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方>

主な通勤・通学場所は、横浜市内が5割程度で、港北区内はそのうち5割半ばとなっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学がやや多くなっています。



樽町地区

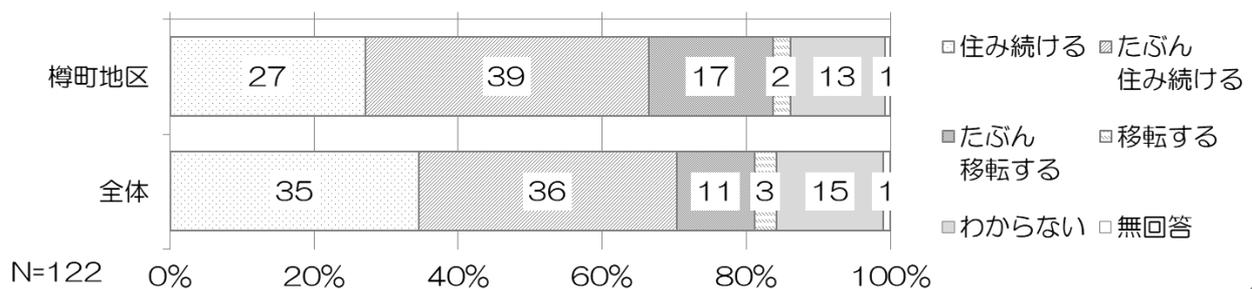
1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が6割半ば

Q：あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っっていますか。（○は1つだけ）

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が6割半ばで、継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計（71%）と比較すると、割合は少なくなっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」（75%）、「買い物に便利だから」（68%）が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

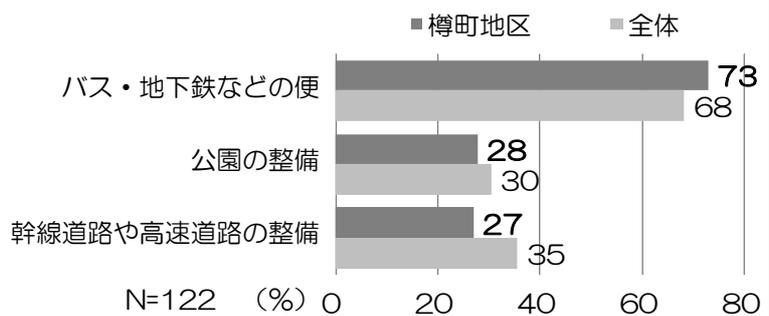
Q：あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。（全31項目から選択。○はいくつでも）

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が73%で最も多くなっています。一方、「ごみの分別収集、リサイクル、ごみの不法投棄対策や街の美化」（25%）は全体集計と比較すると11ポイント少なくなっています。

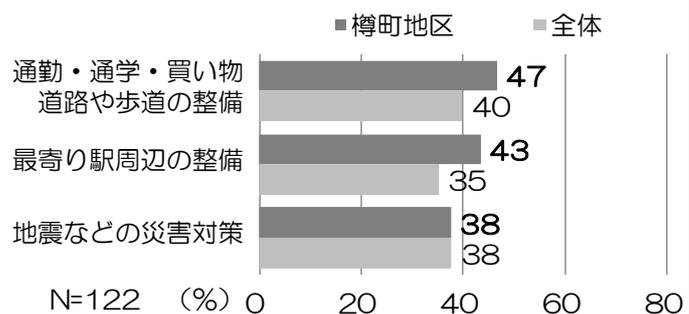
【充実すべきと思う公共サービス】では、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」、「最寄り駅周辺の整備」、「地震などの災害対策」と安心・安全に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「最寄り駅周辺の整備」（43%）と「青少年の健全育成」（25%）は、全体集計と比較すると8ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】 <上位3項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位3項目>



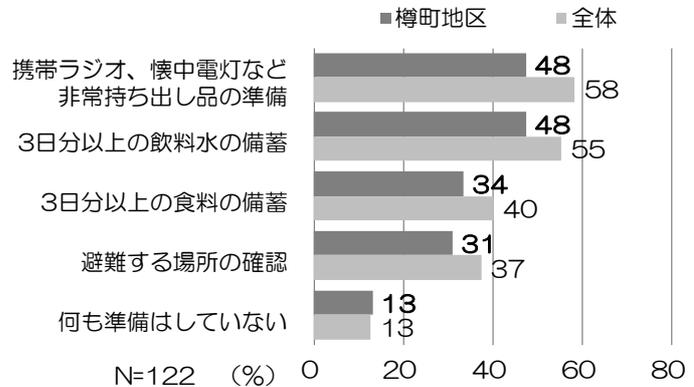
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q：あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。（〇はいくつでも）

地震があった場合の備えとしては、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」、「3日分以上の飲料水の備蓄」は約5割、「3日分以上の食料の備蓄」などが3割半ば程度となり、全体集計と比べ少なく、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数以上の方の備蓄が完全でないと言えます。

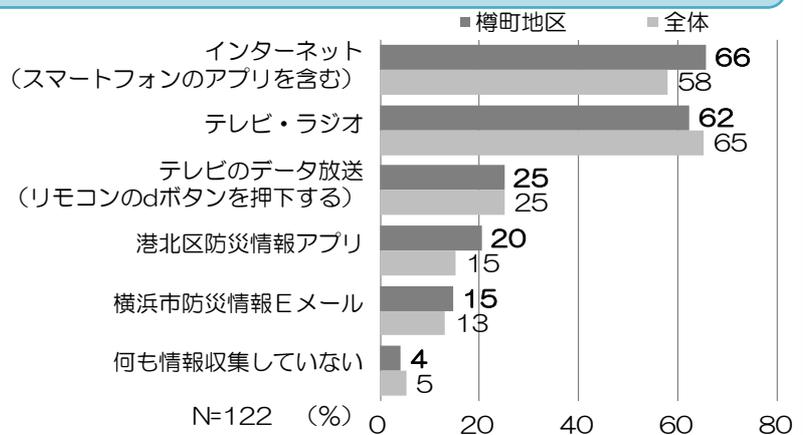


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q：あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。（〇はいくつでも）

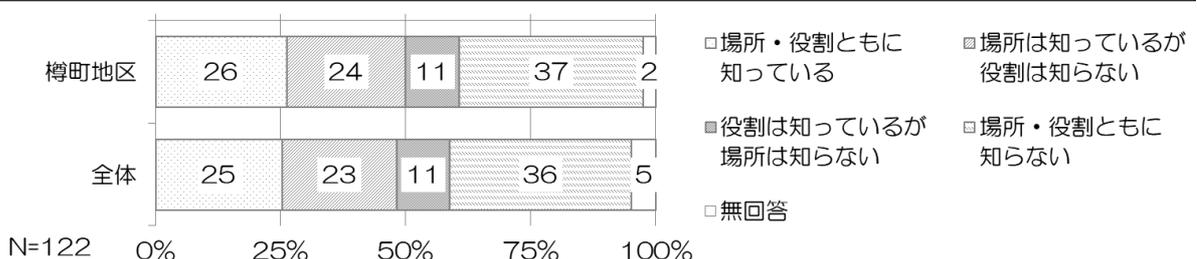
気象情報や避難情報などの主な入手元は「インターネット」「テレビ・ラジオ」が上位となっています。
「港区防災情報アプリ」は2割、「横浜市防災情報Eメール」は1割半ばとなっています。



◆避難場所や避難所の役割について（地域防災拠点）

Q：あなたは、地域防災拠点（指定避難所）の場所や役割を知っていますか。（〇は1つだけ）
※地域防災拠点（指定避難所）：一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数、「役割」まで知っている方は、2割半ばという結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は3割半ばでした。



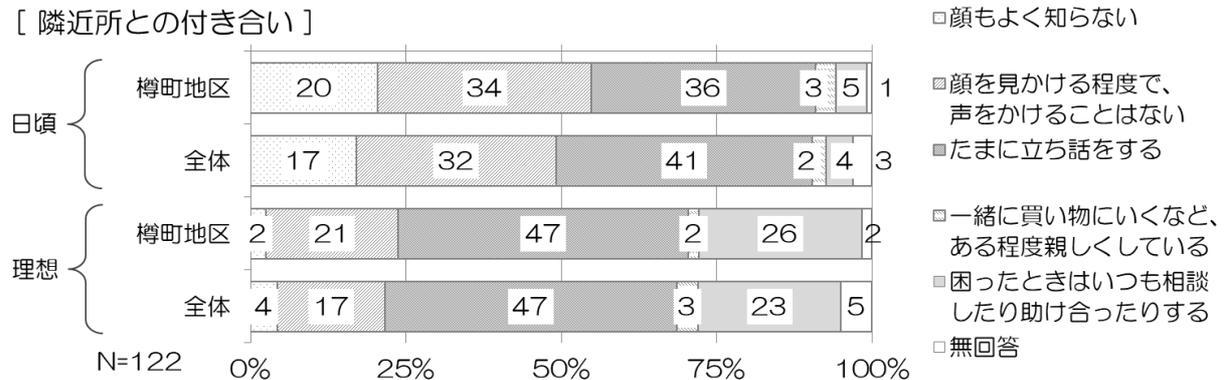
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q：あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。（○は1つだけ）

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が半数程度（54%）と、全体集計（49%）よりも多くなっており、区全体と比べると、近隣との関係はより薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割強、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割半ばなど、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

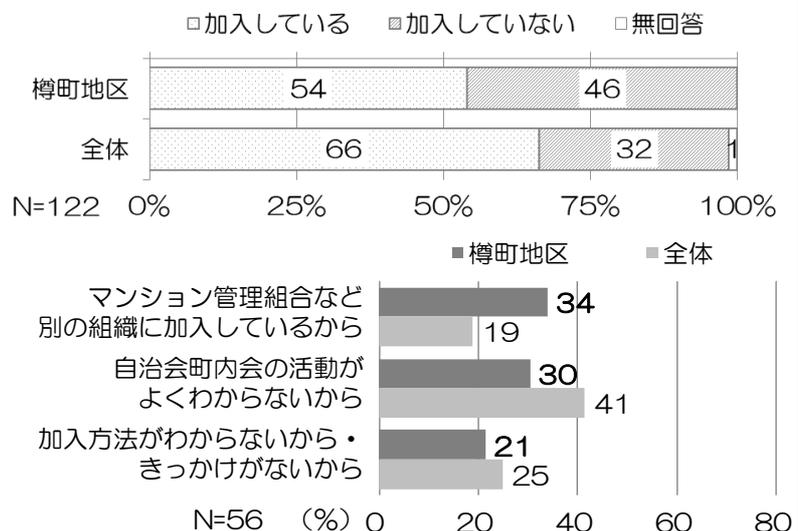
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由〈上位3項目〉

自治会町内会への加入は5割半ばに留まる

Q：あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。（○は1つだけ）また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。〈自治会町内会に「2.加入していない」と回答した方（○は3つまで）〉

自治会町内会へ加入しているのは54%で、全体集計（66%）と比較すると、割合が少なくなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「マンション管理組合など別の組織に加入しているから」が最も多く、「自治会町内会の活動がよくわからないから」、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」が上位となっています。



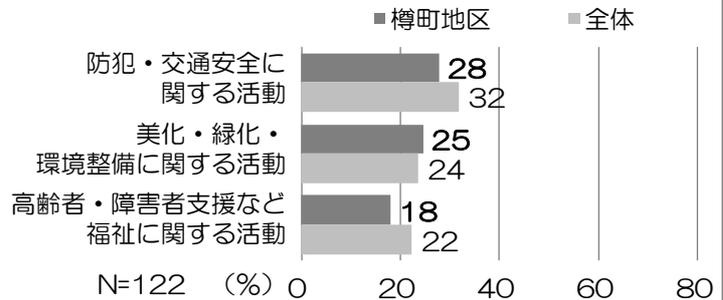
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「高齢者・障害者支援など福祉」が上位3項目

Q：今後、あなたが、お住まいの地域（自治会町内会等）で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。（〇はいくつでも）

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」、「美化・緑化・環境整備に関する活動」2割半ば以上、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が約2割で上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

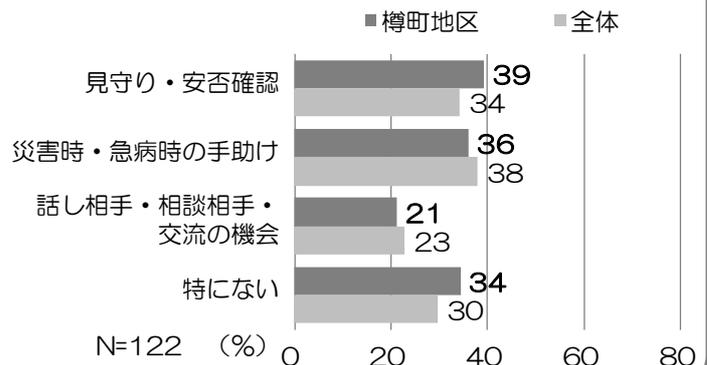
回答者の6割半ばの人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「見守り・安否確認」が約4割、「災害時・急病時の手助け」が3割半ば、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。

Q：日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。（〇はいくつでも）

「見守り・安否確認」(39%)は、全体集計と比べて多くなっています。

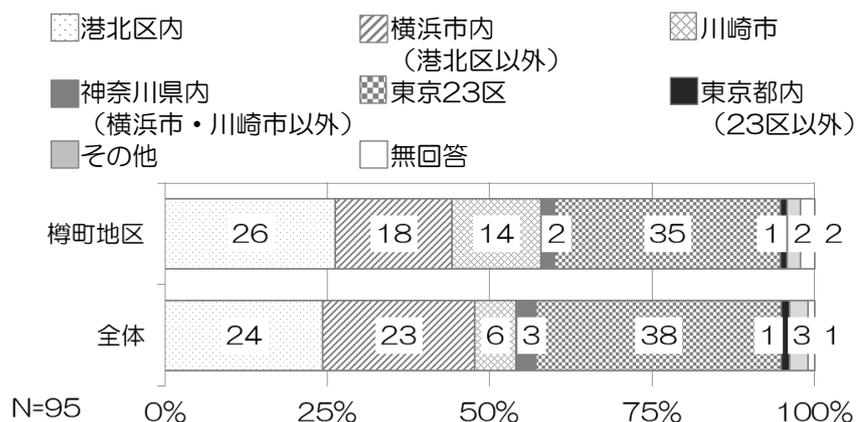
なお、「特にない」と回答したのは3割半ばで、6割半ばの方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。



5. 通勤・通学場所

Q：あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。（〇は1つだけ）〈ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方〉

主な通勤・通学場所は、横浜市内が4割半ばで、港北区内はそのうち約6割となっています。
全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学がやや少なくなっています。



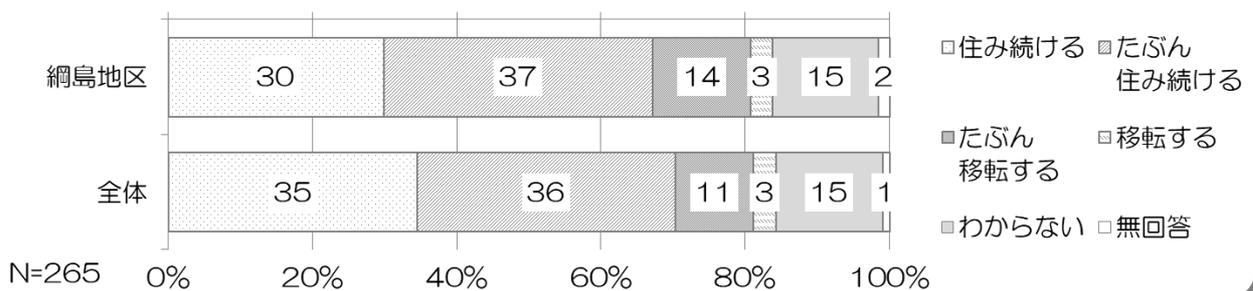
綱島地区

1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割弱

Q：あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っっていますか。（○は1つだけ）

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割弱で、継続して住み続けた方が多くなっています。全体集計（71%）と比較すると、割合はやや少なくなっています。このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」（76%）、「住んでいる場所に愛着を感じているから」（57%）が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

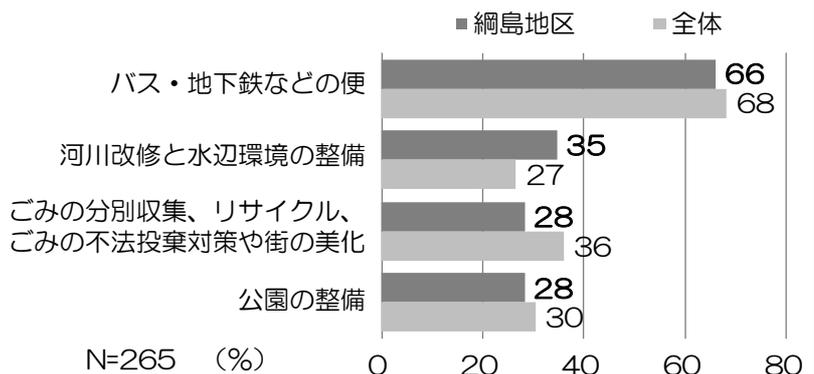
Q：あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。（全31項目から選択。○はいくつでも）

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が66%で最も多くなっています。一方、「幹線道路や高速道路の整備」（26%）は全体集計と比較すると9ポイント少なくなっています。

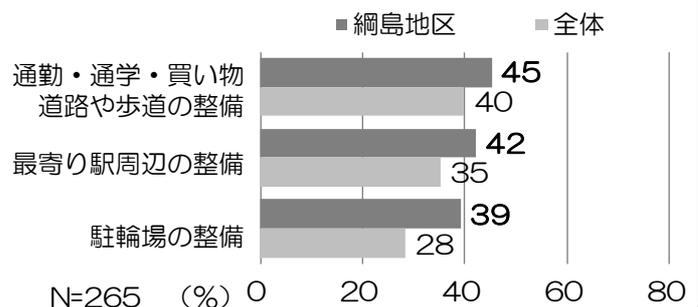
【充実すべきと思う公共サービス】では、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」、「最寄り駅周辺の整備」、「駐輪場の整備」と駅周辺の環境に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「駐輪場の整備」（39%）は、全体集計と比較すると11ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】 <上位4項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位3項目>



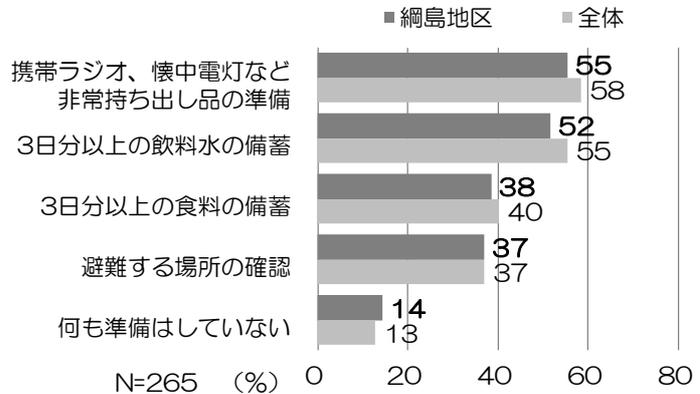
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q：あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。（〇はいくつでも）

地震があった場合の備えとしては、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」、「3日分以上の飲料水の備蓄」は5割を超え、「3日分以上の食料の備蓄」などが4割程度となり、全体集計と比べ若干少なく、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数程度の方の備蓄が完全でないと云えます。

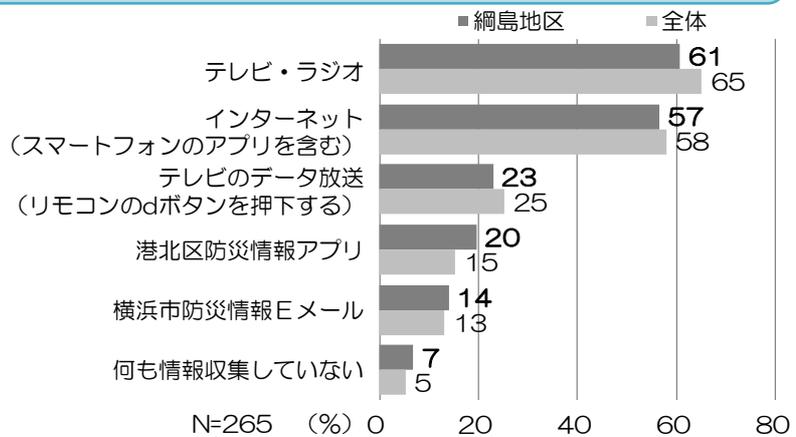


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q：あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。（〇はいくつでも）

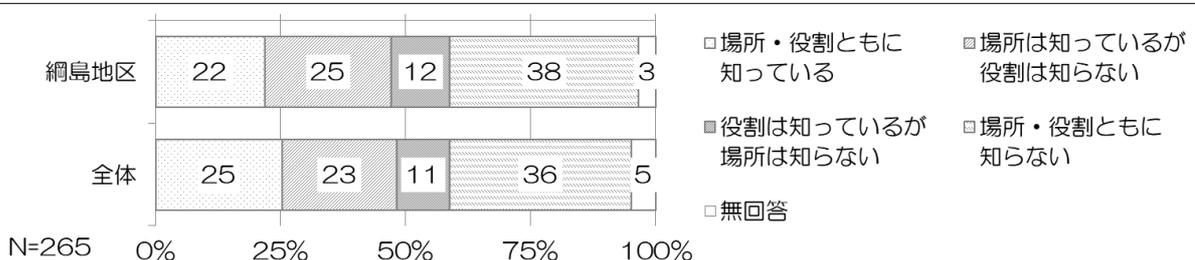
気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。
「港区防災情報アプリ」は2割、「横浜市防災情報Eメール」は、1割半ばとなっています。



◆避難場所や避難所の役割について（地域防災拠点）

Q：あなたは、地域防災拠点（指定避難所）の場所や役割を知っていますか。（〇は1つだけ）
※地域防災拠点（指定避難所）：一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数程度、「役割」まで知っている方は、2割程度という結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は約4割でした。



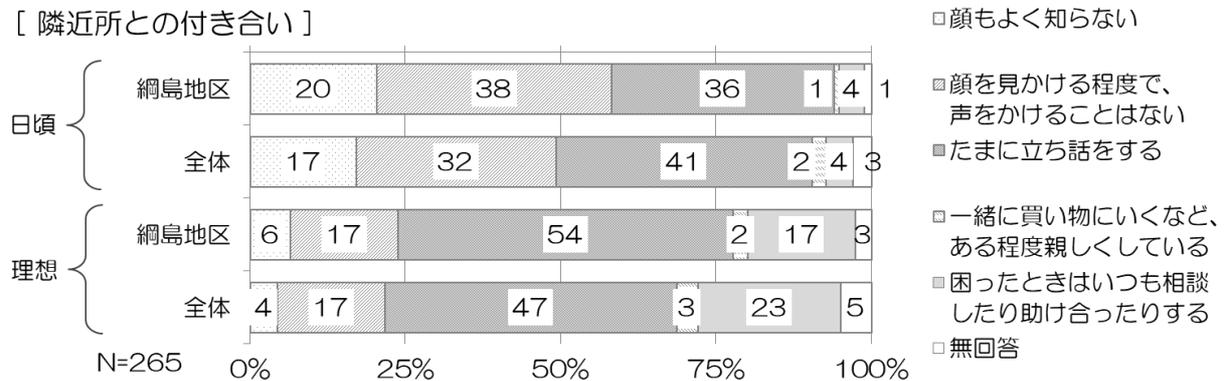
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「顔を見かける程度で、声をかけることはない」が最も多く、近隣との関係は薄れてきている

Q：あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。（○は1つだけ）

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が6割程度（58%）と、全体集計（49%）よりも多くなっており、区全体と比べると近隣との関係はより薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割強、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は1割半ばなど、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

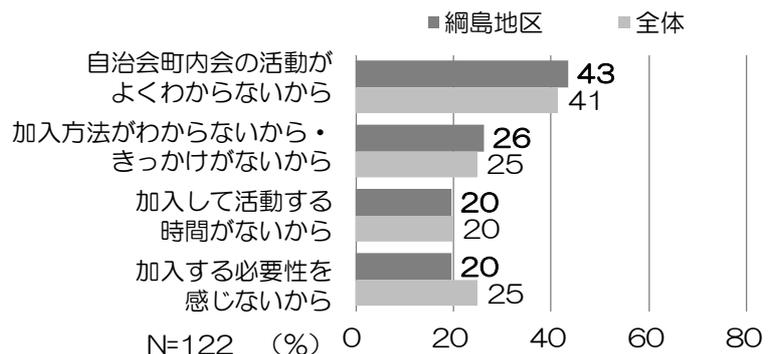
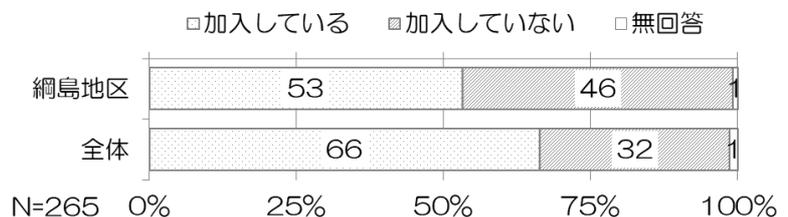
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由〈上位4項目〉

自治会町内会への加入は半数に留まる

Q：あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。（○は1つだけ）また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。〈自治会町内会に「2.加入していない」と回答した方（○は3つまで）〉

自治会町内会へ加入しているのは53%で、全体集計（66%）と比較すると、割合が少なくなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」、「加入して活動する時間がないから」、「加入して活動する時間がないから」などが上位となっています。



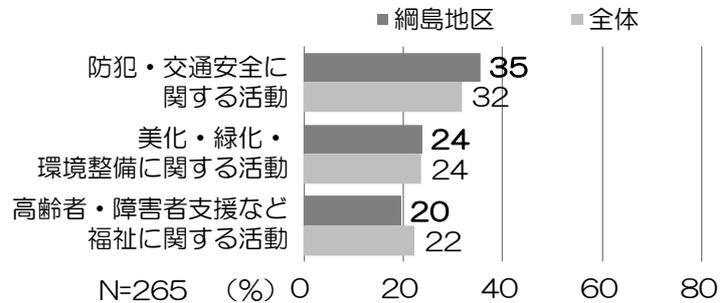
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「高齢者・障害者支援など福祉」が上位3項目

Q：今後、あなたが、お住まいの地域（自治会町内会等）で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。（〇はいくつでも）

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が3割半ば、次いで「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

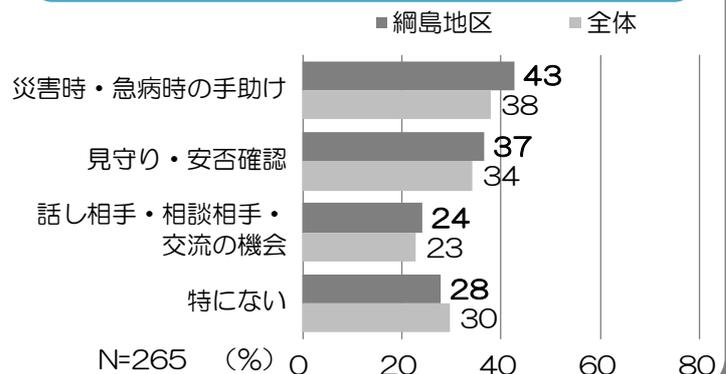
回答者の7割の人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」、「見守り・安否確認」が約4割、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。

Q：日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。（〇はいくつでも）

上位3項目は、全体集計と比べて多くなっています。

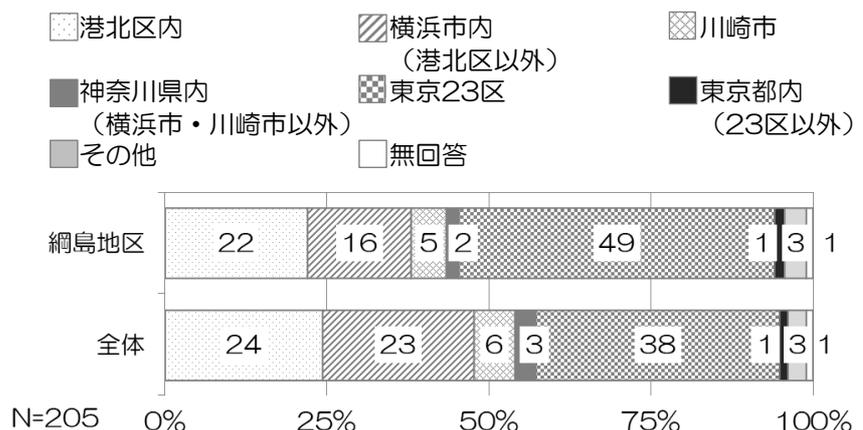
なお、「特にない」と回答したのは約3割で、7割の方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。



5. 通勤・通学場所

Q：あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。（〇は1つだけ）〈ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方〉

主な通勤・通学場所は、横浜市内在が4割程度で、港北区内はそのうち約6割となっています。
全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学が少なくなっています。



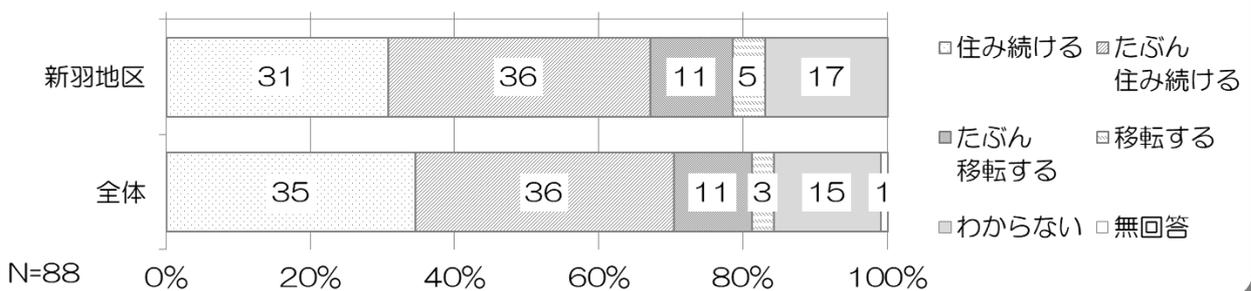
新羽地区

1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割弱

Q：あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っっていますか。（○は1つだけ）

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割弱で、継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計（71%）と比較すると、割合はやや少なくなっています。このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」（56%）、「買い物に便利だから」（53%）が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

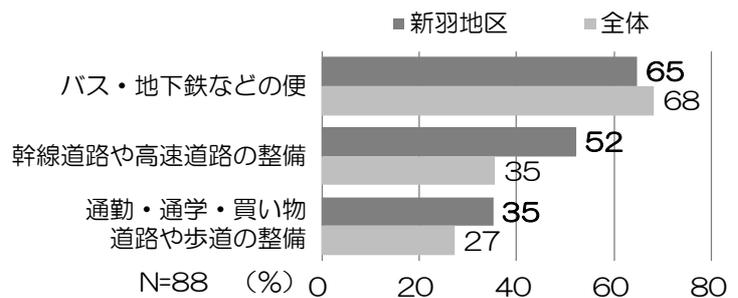
Q：あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。（全31項目から選択。○はいくつでも）

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が65%で最も多くなっています。また、「幹線道路や高速道路の整備」（52%）や「地区センターやコミュニティハウスなどの整備や生涯学習・市民活動の振興」（27%）が全体集計と比較すると割合が多いです。

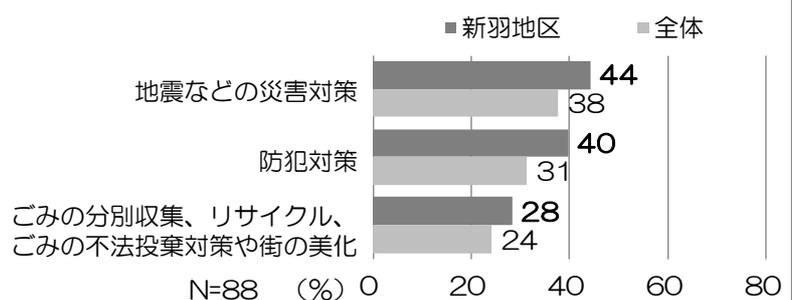
【充実すべきと思う公共サービス】では、「地震などの災害対策」、「防犯対策」、「ごみの分別収集、リサイクル、ごみの不法投棄対策や街の美化」と防災・防犯に関する項目を中心に充実すべきとの声が上がっています。

「バス・地下鉄などの便」（26%）は、全体集計と比較すると11ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】＜上位3項目＞



【充実すべきと思う公共サービス】＜上位3項目＞



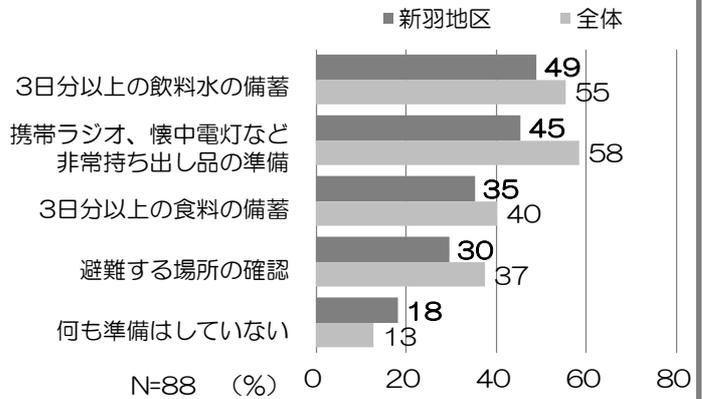
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q：あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)

地震があった場合の備えとしては、「3日分以上の飲料水の備蓄」が約5割、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」が4割半ば、「3日分以上の食料の備蓄」が3割半ば程度となり、全体集計と比べ少なく、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数程度の方の備蓄が完全でないと云えます。

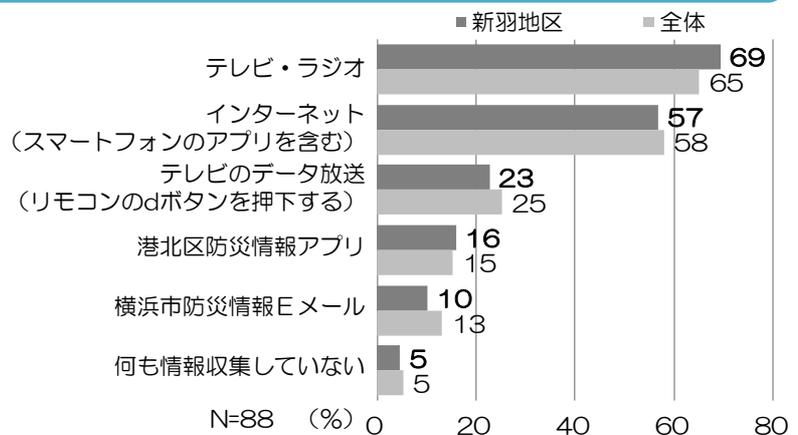


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q：あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。(〇はいくつでも)

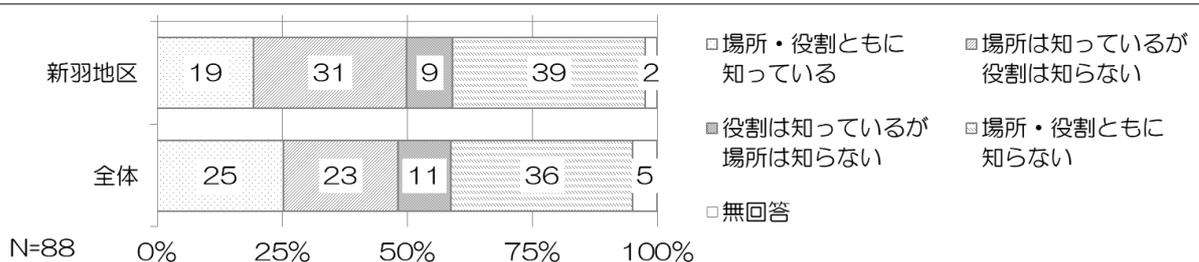
気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。



◆避難場所や避難所の役割について (地域防災拠点)

Q：あなたは、地域防災拠点 (指定避難所) の場所や役割を知っていますか。(〇は1つだけ)
※地域防災拠点 (指定避難所)：一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数、「役割」まで知っている方は、2割程度という結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は約4割でした。



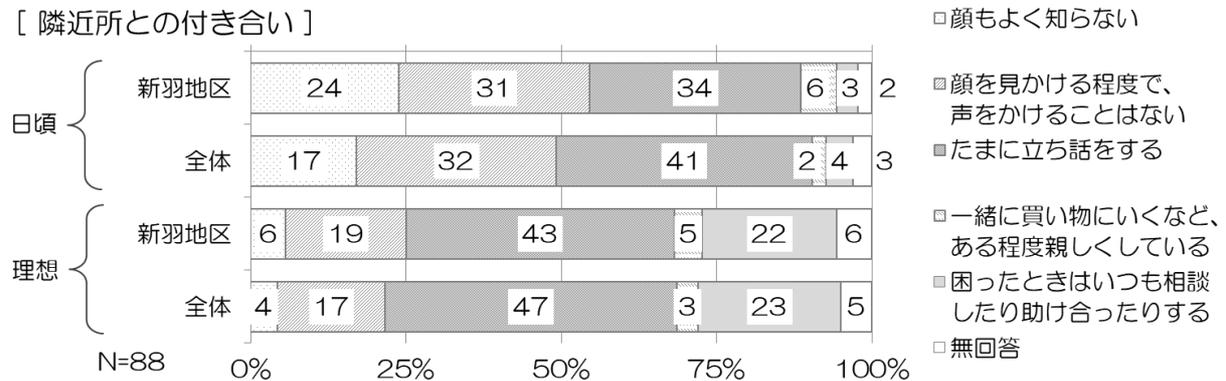
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q：あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。（○は1つだけ）

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が5割半ば（55%）と、全体集計（49%）よりも多くなっており、区全体と比べると近隣との関係はより薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割半ば、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割程度など、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

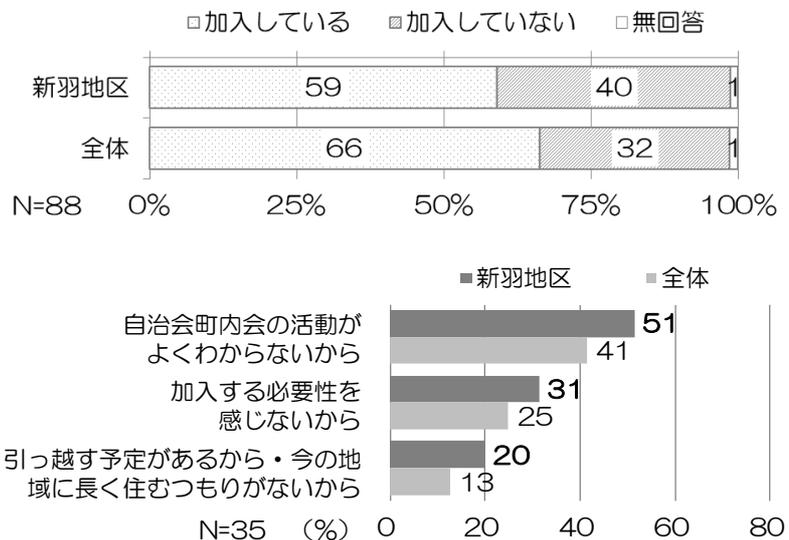
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由 <上位3項目>

自治会町内会への加入は6割に留まる

Q：あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。（○は1つだけ）また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。 <自治会町内会に「2.加入していない」と回答した方（○は3つまで） >

自治会町内会へ加入しているのは59%で、全体集計（66%）と比較すると、割合が少なくなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入する必要性を感じないから」、「引っ越す予定があるから・今の地域に長く住むつもりがないから」が上位となっています。



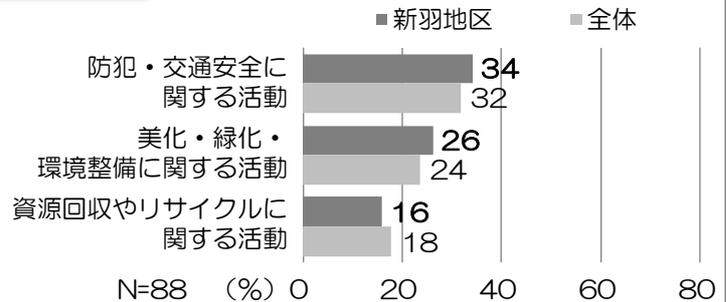
◆**力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉**

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「資源回収やリサイクル」が上位3項目

Q：今後、あなたが、お住まいの地域（自治会町内会等）で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。（〇はいくつでも）

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が3割以上、次いで「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「資源回収やリサイクルに関する活動」が上位の項目となっています。



◆**高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉**

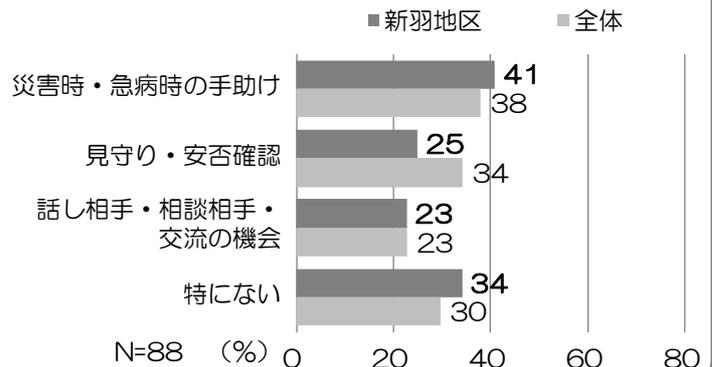
※「特にない」の回答は除く

回答者の6割半ばの人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」が約4割、次いで「見守り・安否確認」、「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。「見守り・安否確認」(25%)は、全体集計と比べて少ない傾向ではありますが、上位です。

Q：日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。（〇はいくつでも）

なお、「特にない」と回答したのは約3割半ばで、6割半ばの方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

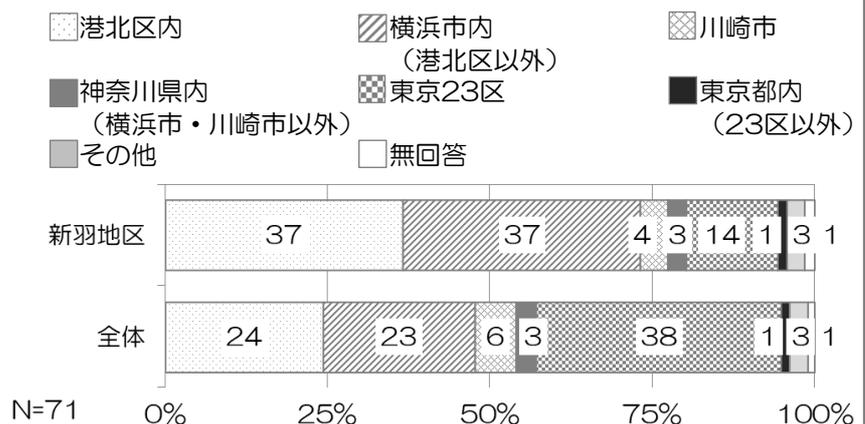


5. 通勤・通学場所

Q：あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。（〇は1つだけ）〈ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方〉

主な通勤・通学場所は、横浜市内が7割半ばで、港北区内はそのうち半数の割合となっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学が多くなっています。



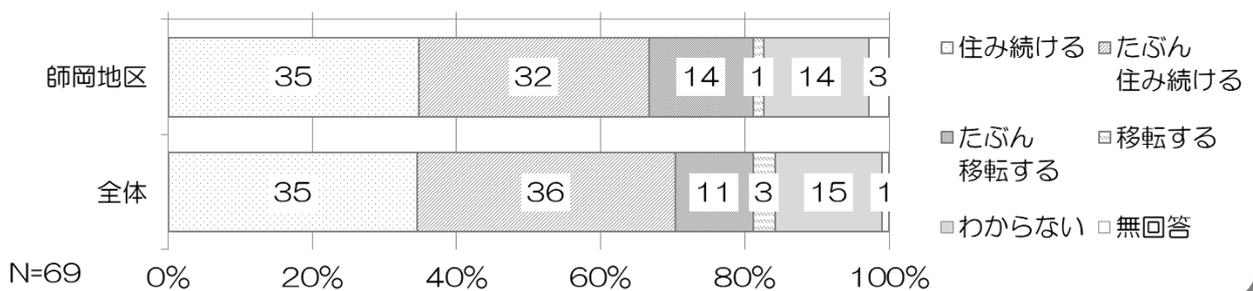
師岡地区

1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割弱

Q：あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っっていますか。（○は1つだけ）

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割弱で、継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計（71%）と比較すると、割合はやや少なくなっています。
このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」（72%）、「住んでいる場所に愛着を感じているから」（50%）、「買い物に便利だから」（50%）が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する人が多い

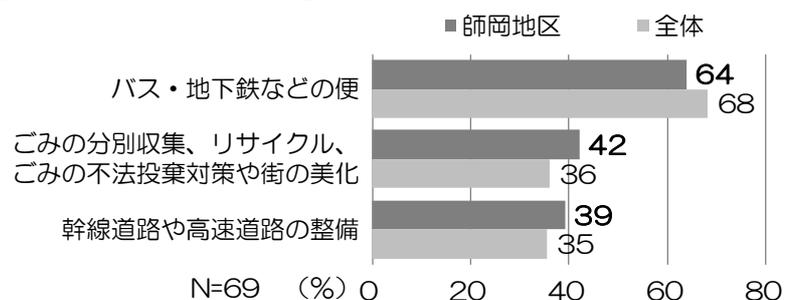
Q：あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。（全31項目から選択。○はいくつでも）

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が64%で最も多くなっています。一方、「最寄り駅周辺の整備」（19%）は全体集計と比較すると9ポイント少なくなっています。

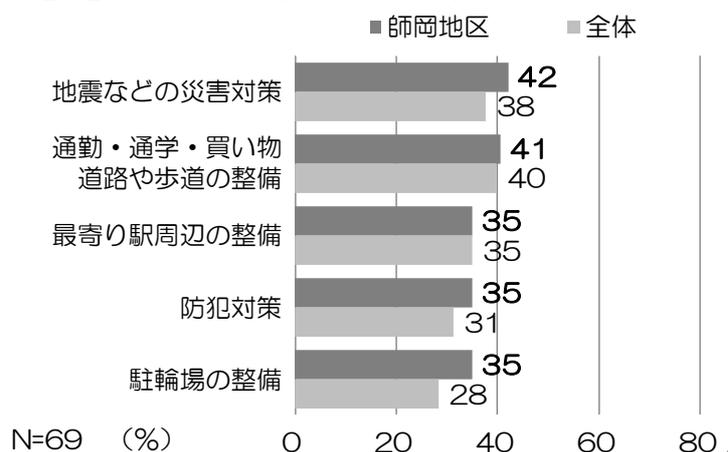
【充実すべきと思う公共サービス】では、「地震などの災害対策」、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」など防災・交通に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「バス・地下鉄などの便」（23%）は、全体集計と比較すると8ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】 <上位3項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位5項目>



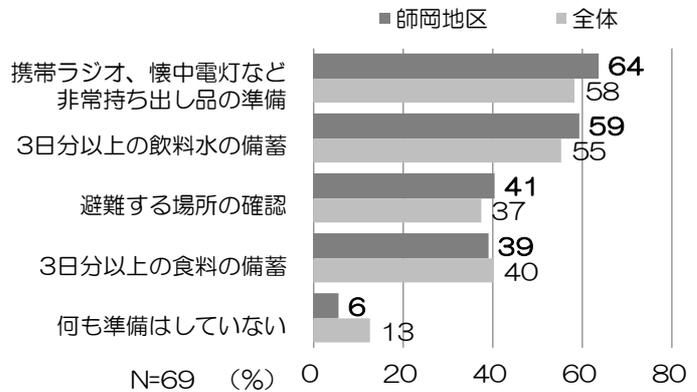
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q：あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。（〇はいくつでも）

地震があった場合の備えとしては、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」は6割半ば、「3日分以上の飲料水の備蓄」は約6割、「避難する場所の確認」などが約4割となり、全体集計と比べ多いですが、在宅避難に必要な飲料水や食料について、4割程度の方の備蓄が完全でないとと言えます。

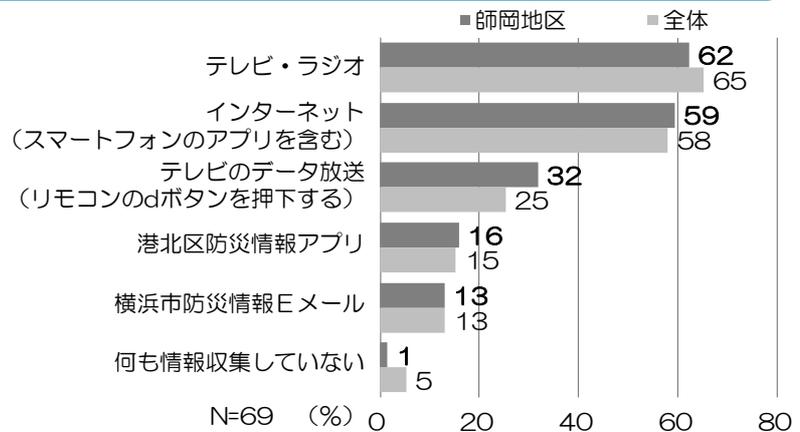


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q：あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。（〇はいくつでも）

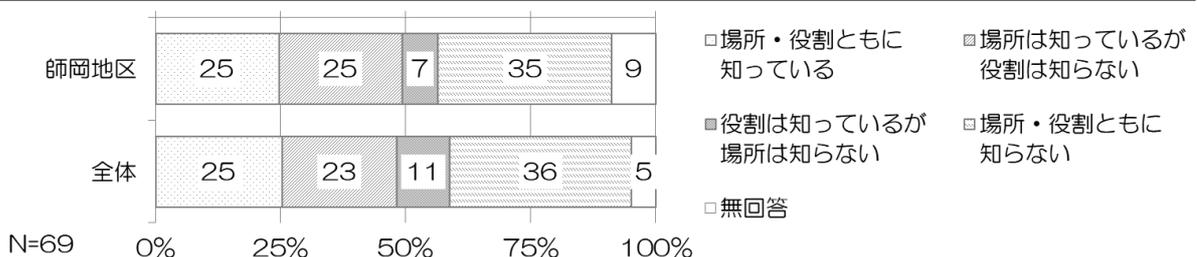
気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。



◆避難場所や避難所の役割について（地域防災拠点）

Q：あなたは、地域防災拠点（指定避難所）の場所や役割を知っていますか。（〇は1つだけ）
※地域防災拠点（指定避難所）：一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数、「役割」まで知っている方は、2割半ばという結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は3割半ばでした。

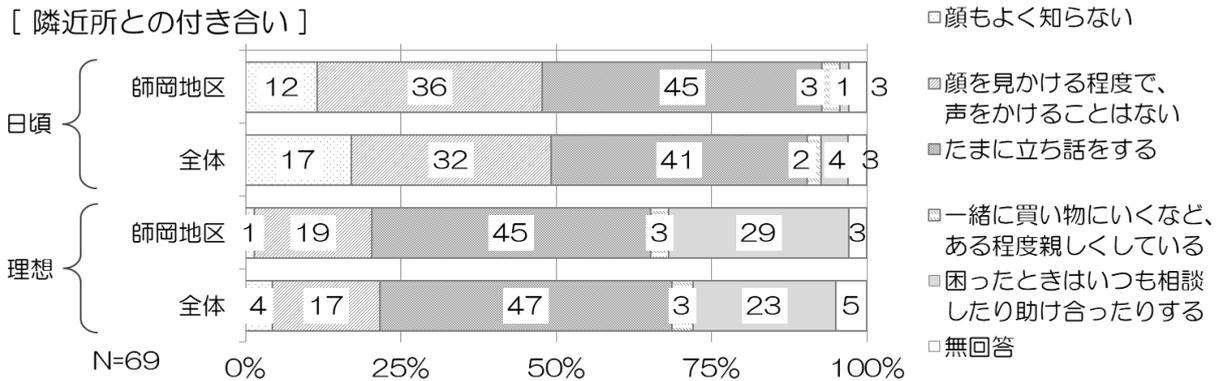


4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q：あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。（○は1つだけ）



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が半数程度（48%）と、全体集計（49%）とほぼ同率となっており、区全体の結果と同様、近隣との関係は薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は約3割など、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

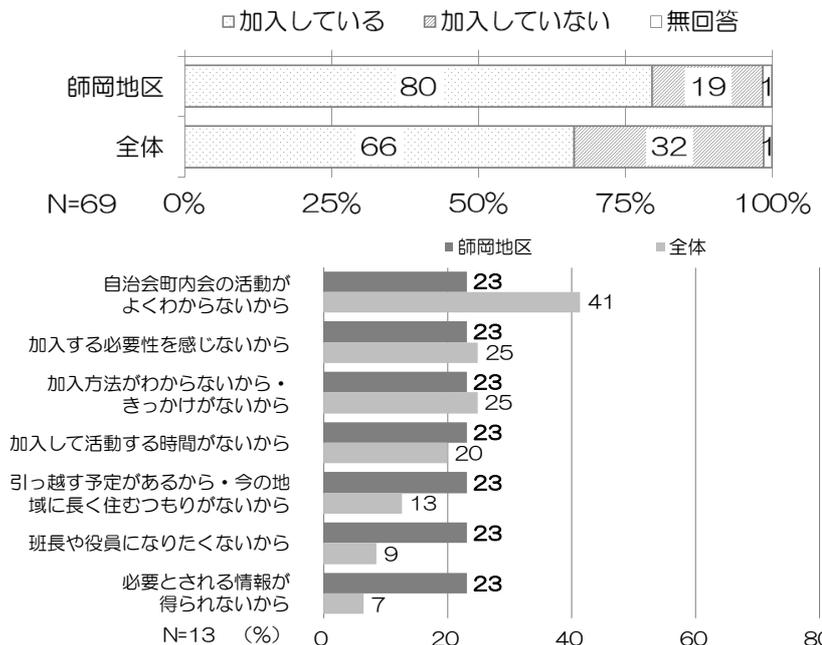
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由〈上位7項目〉

自治会町内会への加入は8割

Q：あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。（○は1つだけ）また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。〈自治会町内会に「2.加入していない」と回答した方（○は3つまで）〉

自治会町内会へ加入しているのは80%で、全体集計（66%）と比較すると、割合が多くなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」、「加入する必要性を感じないから」、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」など同率で様々な理由が挙げられています。



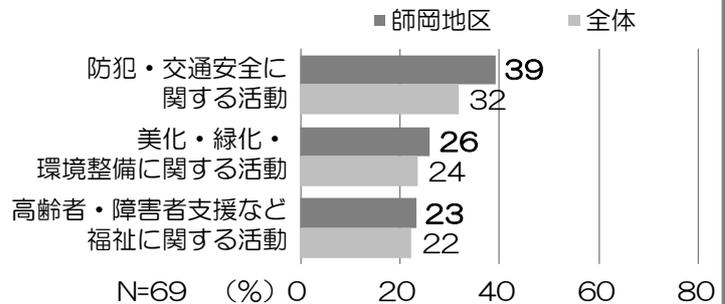
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「高齢者・障害者支援など福祉」が上位3項目

Q：今後、あなたが、お住まいの地域（自治会町内会等）で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。（○はいくつでも）

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が約4割、「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が2割以上で上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

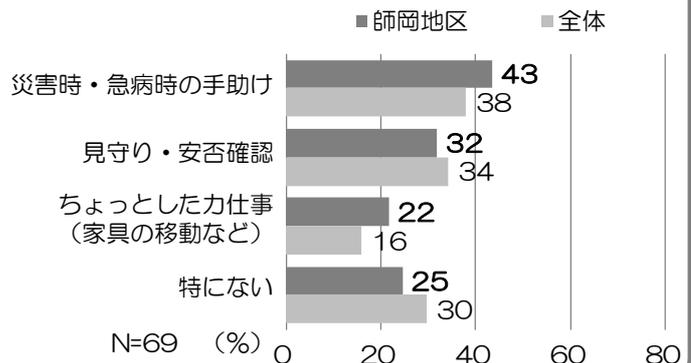
※「特にない」の回答は除く

回答者の7割半ばの人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」が4割以上、「見守り・安否確認」が3割以上、次いで「ちょっとした力仕事」が上位の項目となっています。「災害時・急病時の手助け」（43%）と「ちょっとした力仕事」（22%）は、全体集計と比べて多くなっています。

Q：日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。（○はいくつでも）

なお、「特にない」と回答したのは2割半ばで、7割半ばの方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。



5. 通勤・通学場所

Q：あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。（○は1つだけ）〈ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方〉

主な通勤・通学場所は、横浜市内が3割半ばで、港北区内はそのうち5割半ばとなっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学が少なくなっています。

